

第Ⅱ部

北海道子どもの生活実態調査(小2～高2)報告

目 次

調査の概要	73
-------------	----

第Ⅰ部 保護者回答結果より

1 調査回答世帯について	76
2 働き方について	79
3 家計・生活不安について	83
4 健康について	89
5 進学について	99
6 相談相手・制度の利用について	105
7 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響について	115

第Ⅱ部 子ども回答結果より

1 自分の家の暮らし向き	125
2 居場所・相談相手・食事等について	127
3 進学・勉強時間・成績について	134
4 健康（精神衛生）について	143

調査の概要

(1) 目的

子どもの貧困対策を効果的に推進するため、世帯の経済状況と子どもの生活環境や学校・家庭での過ごし方などとの関係を具体的に把握することを目的とする。

(2) 調査対象

小学校2年生、小学校5年生、中学校2年生、高校2年生の保護者
小学校5年生、中学校2年生、高校2年生の子ども

(3) 調査内容

保護者：健康状態、就労状況、収入、学歴、暮らし向き、制度の利用状況 等
子ども：健康状態、生活習慣、学習、人とのつながり、自己肯定感 等

(4) 調査方法

無記名によるアンケート方式

- ・学校を通じて配布・回収
- ・保護者及び子どもが記載した調査票は、記入後、それぞれの回収用封筒に入れ、封を閉じて、学校に提出

(5) 実施時期

令和3年10月～11月

(6) 実施地域

- 1) 地域の区分は、北海道総合計画の6連携地域とするが、道央地域は人口が集中し、また、広域であるため、「空知・石狩」「後志」「胆振・日高」で細分した。
- 2) 平成28年度に実施した「子どもの生活実態調査」との比較検討を考慮し、同じ市町を対象とした。
- 3) 地域ごとの各調査学年の対象者数は、全道の調査学年（小2、小5、中2、高2）に対する地域ごとの調査学年の子どもの人数比により、調査対象予定者数として設定した約2500人を按分し算出した。これは北海道内当該学年人口の約1／10に相当する。

実施地域の区分と市町村

道 央			道 南	道 北	オホーツク	十 勝	釧路・根室
空知・石狩	後 志	胆振・日高					
三笠市	岩内町	登別市	北斗市	稚内市	網走市	幕別町	釧路市
滝川市	蘭越町	浦河町					

(7) 調査票の配布、回収状況

調査票の配布、回収状況

調査対象		配布数	有効回答数	有効回答率 (%)	マッチング数	マッチング率 (%)	参考：当該学年 児童数（札幌市 を除く全道）
小学2年生	保護者	2,354	1,887	80.2	—	—	23,273
小学5年生	保護者	2,586	1,970	76.2	1,930	98.0	24,842
	子ども	2,586	1,970	76.2			
中学2年生	保護者	2,507	1,729	69.0	1,709	99.0	24,948
	子ども	2,507	1,726	68.8			
高校2年生	保護者	2,173	1,266	58.3	1,224	95.9	25,719
	子ども	2,173	1,276	58.7			
合計	保護者	9,620	6,852	71.2	4,863	97.8	98,782
	子ども	7,266	4,972	68.4			

注：本研究で「マッチング数」とは、「保護者の調査票」と「子どもの調査票」について同一世帯の情報として集計が可能になった数をいい、「マッチング率」とは、子どもの有効回答数を母数として、マッチング数を除いた割合をいいます。

(8) 実施主体

本調査は、北海道と北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター「子どもの生活実態調査」研究班と共同で実施している。科学研究費助成事業基盤研究（A）「子ども・子育て家族の貧困と政策・実践：「包括的最低限保障」の構想のために（研究代表者：松本伊智朗北海道大学大学院教育学研究院教授）」による研究の一環として行われており、北海道大学大学院教育学研究院における人間を対象とする研究倫理審査（21-23）の承認を受けている。

(9) 集計方法等

1) 表記について

結果数値（%）は小数第2位を四捨五入して表示しているため、内数の計が合計に一致しない場合がある。また集計上、未記入等不明分を除いた回収数を記載している。

一部の項目については、マッチング数に基づき集計しているため、学年別に全体を集計した表の合計値と、家族形態別・年収階層別の表の合計値が一致しないものがある。複数回答の項目における割合（%）は、対象回答者数を分母として集計している。

2) 所得階層の区分方法

本報告書で用いられる5区分の所得階層は、2019年国民生活基礎調査における貧困率の推計に用いられる「相対所得貧困線」を基準線として用い、その倍率に準じて設定している。該当する倍率は、「低所得層Ⅰ」：1.0倍未満、「低所得層Ⅱ」：1.0～1.4倍未満、「中間所得層Ⅰ」：1.4～1.8倍未満、「中間所得層Ⅱ」：1.8～2.5倍未満、「上位所得層」2.5倍以上である。基準線（相対所得貧困線）は、一人当たり等価可処分所得の中央値の50%であり、2019年国民生活基礎調査では127万円である。これに世帯人数の平方根を掛けて、世帯人数ごとの基準線を設定した。調査では、50万円刻みの選択肢（800万円以上は100万円刻み）で年間所得の回答を求めている。これは当初

所得なので、可処分所得に変換する必要がある。国民生活基礎調査では、所得5分位階層ごとに、所得範囲と平均所得（a）、平均可処分所得（b）を示している。これによって、それぞれの所得分位（所得範囲）ごとの平均所得と平均可処分所得の比を求めることができる。この比を係数として用い、当該世帯の可処分所得の推計値を算出し、該当する上記の所得階層区分を当てはめた。本調査では、基本的に50万円刻みの選択肢で「所得の幅」を把握しているため、選択肢の区分線と所得階層区分線が一致しない場合が生ずる。これについては、ずれの幅の小さいほうの所得階層に区分することとした。

※国の子どもの貧困率等の基となる国民生活基礎調査では、詳しい聞き取りの方法により可処分所得の回答を得ているが、本アンケート調査では、年間収入から可処分所得を推計しており、調査・集計方法が異なるため単純な比較はできない。

3) 世帯類型について

世帯類型は、「父+母+子」と「父+母+子+祖父母」（祖父のみ、祖母のみの場合を含む。以下同様）を「ふたり親世帯」とし、「母+子」、「母+子+祖父母」、「父+子」、「父+子+祖父母」を「ひとり親世帯」として、調査結果を示している。

第 I 部 保護者回答結果より

1 調査回答世帯について

以下は、保護者調査の回答世帯の子どもの学年（表 I - 1 - 1）、家族構成（表 I - 1 - 2）、世帯類型（表 I - 1 - 3）、所得階層（表 I - 1 - 4）である。世帯類型は、家族構成の「父+母+子」「父+母+子+祖父母」を「ふたり親世帯」、「母+子」「母+子+祖父母」「父+子」「父+子+祖父母」を「ひとり親世帯」として再構成したものである。本報告書では、子どもの学年、世帯類型、所得階層を主な軸として、報告を行う。

学年は、高校 2 年生は回答率の低さを反映して回答数が少ないが、他はほぼ均等に分布している。家族構成は母子世帯が全体の約 14% であり、世帯類型として父子世帯を含む「ひとり親世帯」に集約すると約 15% になる。所得階層は、低所得層 I が 16.5% である。中間所得層 II が 25.4% と比率が高いが、他はほぼ均等に分布している。

表 I - 1 - 1 学年

小学 2 年生	1,887	27.5%
小学 5 年	1,970	28.8%
中学 2 年生	1,729	25.2%
高校 2 年生	1,266	18.5%
全 体	6,852	100.0%

※小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 I - 1 - 2 家族構成

父+母+子	5,208	76.0%
父+母+子+祖父母	453	6.6%
母+子	745	10.9%
母+子+祖父母	184	2.7%
父+子	77	1.1%
父+子+祖父母	41	0.6%
その他	71	1.0%
不明	73	1.1%
全 体	6,852	100.0%

※小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 I - 1 - 3 世帯類型

ひとり親世帯	1,047	15.3%
ふたり親世帯	5,661	82.6%
その他世帯	71	1.0%
不明	73	1.1%
全 体	6,852	100.0%

※小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 I - 1 - 4 所得階層

低所得層 I	1,128	16.5%
低所得層 II	1,206	17.6%
中間所得層 I	1,137	16.6%
中間所得層 II	1,743	25.4%
上位所得層	987	14.4%
不明	651	9.5%
全 体	6,852	100.0%

※小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表I-1-5～表I-1-7に、基本指標である子どもの学年、世帯類型、所得階層のそれぞれのクロスを示す。学年段階が上がるほど「ひとり親世帯」の比率が高くなる。また高校2年生で低所得層Iと上位所得層の比率がそれぞれ最も高く、学年段階が上がるにつれて所得格差が拡大する傾向が確認できる。また、ひとり親世帯の52%が低所得層Iであり、ひとり親世帯の貧困リスクの高さが示されている。

表I-1-5 学年と世帯類型のクロス

		合 計	世 帯 類 型			
			ひとり親世帯	ふたり親世帯	その他世帯	不 明
全 体		6,852 100.0%	1,047 15.3%	5,661 82.6%	71 1.0%	73 1.1%
学 年	小学2年生	1,887 100.0%	210 11.1%	1,647 87.3%	16 0.8%	14 0.7%
	小学5年生	1,970 100.0%	277 14.1%	1,658 84.2%	20 1.0%	15 0.8%
	中学2年生	1,729 100.0%	298 17.2%	1,383 80.0%	22 1.3%	26 1.5%
	高校2年生	1,266 100.0%	262 20.7%	973 76.9%	13 1.0%	18 1.4%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表I-1-6 学年と所得階層のクロス

		合 計	所 得 階 層					不 明
			低所得層I	低所得層II	中間所得層I	中間所得層II	上位所得層	
全 体		6,852 100.0%	1,128 16.5%	1,206 17.6%	1,137 16.6%	1,743 25.4%	987 14.4%	651 9.5%
学 年	小学2年生	1,887 100.0%	321 17.0%	342 18.1%	339 18.0%	468 24.8%	242 12.8%	175 9.3%
	小学5年生	1,970 100.0%	313 15.9%	359 18.2%	340 17.3%	502 25.5%	279 14.2%	177 9.0%
	中学2年生	1,729 100.0%	265 15.3%	293 16.9%	272 15.7%	480 27.8%	258 14.9%	161 9.3%
	高校2年生	1,266 100.0%	229 18.1%	212 16.7%	186 14.7%	293 23.1%	208 16.4%	138 10.9%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 1 - 7 世帯類型と所得階層のクロス

		合 計	所 得 階 層					不 明
			低所得層 I	低所得層 II	中間所得層 I	中間所得層 II	上位所得層	
全 体		6,852 100.0%	1,128 16.5%	1,206 17.6%	1,137 16.6%	1,743 25.4%	987 14.4%	651 9.5%
世帯 類 型	ひとり親世帯	1,047 100.0%	549 52.4%	196 18.7%	110 10.5%	86 8.2%	25 2.4%	81 7.7%
	ふたり親世帯	5,661 100.0%	548 9.7%	996 17.6%	1,022 18.1%	1,651 29.2%	954 16.9%	490 8.7%
	その他世帯	71 100.0%	28 39.4%	13 18.3%	3 4.2%	6 8.5%	8 11.3%	13 18.3%
	不 明	73 100.0%	3 4.1%	1 1.4%	2 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	67 91.8%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

回答者と子どもの関係（表 I - 1 - 8）、回答者の年齢（表 I - 1 - 9）を以下に示す。回答者は子どもの母親が9割近くを占め、30代後半から40代に多いことがわかる。

表 I - 1 - 8 回答者とお子さんとの関係

母親	6,100	89.0%
父親	639	9.3%
きょうだい	5	0.1%
祖母	28	0.4%
祖父	1	0.0%
その他	34	0.5%
不明	45	0.7%
全 体	6,852	100.0%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 1 - 9 回答者の年齢

～19歳	25	0.4%
20～24歳	8	0.1%
25～29歳	95	1.4%
30～34歳	479	7.0%
35～39歳	1,601	23.4%
40～44歳	2,198	32.1%
45～49歳	1,663	24.3%
50～54歳	574	8.4%
55～59歳	105	1.5%
60～64歳	17	0.2%
65歳以上	23	0.3%
不明	64	0.9%
全 体	6,852	100.0%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

2 働き方について

全体でみると、母親の43.4%がパート・アルバイトで働き、25.9%が正規の職員・従業員として働いている。15.0%が働いていない。学年が上がるほど働いていない人の割合は減少する（表I-2-1）。

ひとり親世帯の母親はふたり親世帯の母親に比べて働いていない割合が低く（ひとり親世帯6.9%、ふたり親世帯16.4%）、正規の職員・従業員である割合が高い（ひとり親世帯42.0%、ふたり親世帯23.2%）。パート・アルバイトで働く割合はふたり親世帯の方が高い（ひとり親世帯35.7%、ふたり親世帯では45.0%）。（表I-2-2）。

所得階層別にみると、上位所得層の母親の49.0%が正規の職員・従業員である。低所得層Ⅰ～中間所得層Ⅰでは、母親の就業状況に大きな違いはみられない（表I-2-3）。

表I-2-1 学年と母親の就業状況のクロス

	合計	母親の就業状況										
		正規の職員・従業員	パート・アルバイト	員・嘱託 派遣社員・契約社	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明	
全体	6,658 100.0%	1,722 25.9%	2,892 43.4%	347 5.2%	76 1.1%	490 7.4%	11 0.2%	67 1.0%	1,000 15.0%	6 0.1%	47 0.7%	
学年	小学2年生	1,859 100.0%	453 24.4%	777 41.8%	72 3.9%	10 0.5%	144 7.7%	6 0.3%	22 1.2%	358 19.3%	2 0.1%	15 0.8%
	小学5年生	1,930 100.0%	482 25.0%	847 43.9%	85 4.4%	20 1.0%	135 7.0%	3 0.2%	25 1.3%	319 16.5%	1 0.1%	13 0.7%
	中学2年生	1,662 100.0%	437 26.3%	741 44.6%	108 6.5%	32 1.9%	125 7.5%	1 0.1%	7 0.4%	197 11.9%	2 0.1%	12 0.7%
	高校2年生	1,207 100.0%	350 29.0%	527 43.7%	82 6.8%	14 1.2%	86 7.1%	1 0.1%	13 1.1%	126 10.4%	1 0.1%	7 0.6%

※小2、小5、中2、高2の保護者（父子世帯を除く）が回答

表 I-2-2 世帯類型と母親の就業状況のクロス

	合計	母親の就業状況										
		正規の職員・従業員	パート・アルバイト	員・嘱託 派遣社員・契約社	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明	
全体	6,658 100.0%	1,722 25.9%	2,892 43.4%	347 5.2%	76 1.1%	490 7.4%	11 0.2%	67 1.0%	1,000 15.0%	6 0.1%	47 0.7%	
世帯類型	ひとり親世帯	929 100.0%	390 42.0%	332 35.7%	94 10.1%	6 0.6%	26 2.8%	0 0.0%	9 1.0%	64 6.9%	0 0.0%	8 0.9%
	ふたり親世帯	5,661 100.0%	1,314 23.2%	2,547 45.0%	247 4.4%	70 1.2%	448 7.9%	11 0.2%	55 1.0%	928 16.4%	6 0.1%	35 0.6%
	その他世帯	52 100.0%	15 28.8%	9 17.3%	5 9.6%	0 0.0%	15 28.8%	0 0.0%	3 5.8%	5 9.6%	0 0.0%	0 0.0%
	不明	16 100.0%	3 18.8%	4 25.0%	1 6.3%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 18.8%	0 0.0%	4 25.0%

※小2、小5、中2、高2の保護者（父子世帯を除く）が回答

表 I-2-3 所得階層と母親の就業状況のクロス

	合計	母親の就業状況										
		正規の職員・従業員	パート・アルバイト	員・嘱託 派遣社員・契約社	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明	
全体	6,658 100.0%	1,722 25.9%	2,892 43.4%	347 5.2%	76 1.1%	490 7.4%	11 0.2%	67 1.0%	1,000 15.0%	6 0.1%	47 0.7%	
所得階層	低所得層Ⅰ	1,099 100.0%	216 19.7%	528 48.0%	71 6.5%	9 0.8%	83 7.6%	1 0.1%	15 1.4%	170 15.5%	1 0.1%	5 0.5%
	低所得層Ⅱ	1,172 100.0%	204 17.4%	599 51.1%	60 5.1%	5 0.4%	77 6.6%	1 0.1%	19 1.6%	198 16.9%	1 0.1%	8 0.7%
	中間所得層Ⅰ	1,117 100.0%	234 20.9%	551 49.3%	64 5.7%	7 0.6%	70 6.3%	3 0.3%	9 0.8%	172 15.4%	3 0.3%	4 0.4%
	中間所得層Ⅱ	1,713 100.0%	494 28.8%	758 44.2%	101 5.9%	19 1.1%	85 5.0%	4 0.2%	10 0.6%	236 13.8%	0 0.0%	6 0.4%
	上位所得層	973 100.0%	477 49.0%	200 20.6%	34 3.5%	33 3.4%	109 11.2%	1 0.1%	4 0.4%	111 11.4%	1 0.1%	3 0.3%
	不明	584 100.0%	97 16.6%	256 43.8%	17 2.9%	3 0.5%	66 11.3%	1 0.2%	10 1.7%	113 19.3%	0 0.0%	21 3.6%

※小2、小5、中2、高2の保護者（父子世帯を除く）が回答

父親の働き方については、全体でみると、74.9%が正規の職員・従業員であり、13.8%が自営業である。これは学年別でみてもおおむね同様である（表I-2-4）。

世帯類型別にみると、ひとり親世帯（父子世帯）の回答世帯数が少ない（118世帯）ことに留意する必要がある。正規の職員・従業員である割合はひとり親世帯の方がふたり親世帯より低く（ひとり親世帯67.8%、ふたり親世帯75.3%）、自営業である割合はひとり親世帯がふたり親世帯をやや上回る（ひとり親世帯20.3%、ふたり親世帯13.4%）（表I-2-5）。

所得階層別では、低所得層Ⅰにおいて、他の階層より正規の職員・従業員の割合が低く（55.7%）、自営業の割合が他の所得階層より高い（23.2%。ただし上位所得層も17.5%）（表I-2-6）。

表I-2-4 学年と父親の就業状況のクロス

		合 計	父 親 の 就 業 状 況									
			正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	員 ・ 嘱 託 派 遣 社 員 ・ 契 約 社	会 社 ・ 団 体 等 の 役 員	自 営	内 職	そ の 他	働 い て い な い	わ か ら な い	不 明
全 体		5,818 100.0%	4,358 74.9%	44 0.8%	128 2.2%	343 5.9%	800 13.8%	2 0.0%	49 0.8%	43 0.7%	8 0.1%	43 0.7%
学 年	小学 2 年生	1,673 100.0%	1,291 77.2%	15 0.9%	25 1.5%	73 4.4%	234 14.0%	0 0.0%	12 0.7%	7 0.4%	2 0.1%	14 0.8%
	小学 5 年生	1,700 100.0%	1,303 76.6%	7 0.4%	35 2.1%	108 6.4%	215 12.6%	1 0.1%	13 0.8%	8 0.5%	2 0.1%	8 0.5%
	中学 2 年生	1,430 100.0%	1,020 71.3%	14 1.0%	43 3.0%	101 7.1%	212 14.8%	0 0.0%	11 0.8%	15 1.0%	1 0.1%	13 0.9%
	高校 2 年生	1,015 100.0%	744 73.3%	8 0.8%	25 2.5%	61 6.0%	139 13.7%	1 0.1%	13 1.3%	13 1.3%	3 0.3%	8 0.8%

※小2、小5、中2、高2の保護者（母子世帯を除く）が回答

表 I-2-5 世帯類型と父親の就業状況のクロス

	合計	父親の就業状況										
		正規の職員・従業員	パート・アルバイト	員・嘱託 派遣社員・契約社	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明	
全体	5,818 100.0%	4,358 74.9%	44 0.8%	128 2.2%	343 5.9%	800 13.8%	2 0.0%	49 0.8%	43 0.7%	8 0.1%	43 0.7%	
世帯類型	ひとり親世帯	118 100.0%	80 67.8%	4 3.4%	1 0.8%	4 3.4%	24 20.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 3.4%	0 0.0%	1 0.8%
	ふたり親世帯	5,661 100.0%	4,262 75.3%	40 0.7%	124 2.2%	339 6.0%	759 13.4%	2 0.0%	46 0.8%	39 0.7%	8 0.1%	42 0.7%
	その他世帯	30 100.0%	9 30.0%	0 0.0%	3 10.0%	0 0.0%	15 50.0%	0 0.0%	3 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	不明	9 100.0%	7 77.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

※小2、小5、中2、高2の保護者（母子世帯を除く）が回答

表 I-2-6 所得階層と父親の就業状況のクロス

	合計	父親の就業状況										
		正規の職員・従業員	パート・アルバイト	員・嘱託 派遣社員・契約社	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明	
全体	5,818 100.0%	4,358 74.9%	44 0.8%	128 2.2%	343 5.9%	800 13.8%	2 0.0%	49 0.8%	43 0.7%	8 0.1%	43 0.7%	
所得階層	低所得層Ⅰ	583 100.0%	325 55.7%	22 3.8%	40 6.9%	25 4.3%	135 23.2%	0 0.0%	8 1.4%	21 3.6%	3 0.5%	4 0.7%
	低所得層Ⅱ	1,033 100.0%	778 75.3%	11 1.1%	26 2.5%	51 4.9%	134 13.0%	1 0.1%	15 1.5%	9 0.9%	1 0.1%	7 0.7%
	中間所得層Ⅰ	1,045 100.0%	855 81.8%	2 0.2%	21 2.0%	42 4.0%	107 10.2%	1 0.1%	5 0.5%	6 0.6%	0 0.0%	6 0.6%
	中間所得層Ⅱ	1,683 100.0%	1,391 82.7%	3 0.2%	27 1.6%	112 6.7%	132 7.8%	0 0.0%	8 0.5%	3 0.2%	1 0.1%	6 0.4%
	上位所得層	971 100.0%	685 70.5%	1 0.1%	10 1.0%	93 9.6%	170 17.5%	0 0.0%	7 0.7%	0 0.0%	1 0.1%	4 0.4%
	不明	503 100.0%	324 64.4%	5 1.0%	4 0.8%	20 4.0%	122 24.3%	0 0.0%	6 1.2%	4 0.8%	2 0.4%	16 3.2%

※小2、小5、中2、高2の保護者（母子世帯を除く）が回答

3 家計・生活不安について

家計の状況については、全体で見ると、「黒字でもなく赤字でもなくぎりぎりである」がもっとも多く40.1%、次いで「黒字で毎月貯金をしている」が31.0%となっている。学年が上がるほど「黒字で毎月貯金をしている」が減少し（小2 35.1%、高2 24.5%）、「黒字でもなく赤字でもなくぎりぎりである」が増加する（小2 37.5%、高2 44.2%）（表I-3-1）。

世帯類型別も、「黒字でもなく赤字でもなくぎりぎりである」がもっとも多い（ひとり親世帯49.2%、ふたり親世帯38.9%）。「黒字で毎月貯金をしている」世帯の割合はふたり親世帯がひとり親世帯を上回り（ひとり親世帯17.5%、ふたり親世帯34.0%）、「赤字で貯金をとりくずしている」（ひとり親世帯13.5%、ふたり親世帯8.8%）や「赤字で借金をして生活している」（ひとり親世帯11.2%、ふたり親世帯6.5%）のは、ひとり親世帯の方が多い（表I-3-2）。

所得階層との関連は明確であり、所得が高いほど「黒字で毎月貯金をしている」割合が高くなる（低所得層Iで8.6%、上位所得層で68.5%）。一方で、所得階層が低くなるほど、「赤字で貯金を取りくずしている」や「赤字で借金をしている」という回答が多くなる（「赤字で貯金を取りくずしている」は低所得層Iで17.9%、上位所得層で1.8%、「赤字で借金をしている」は低所得層Iで18.0%、上位所得層で1.7%）（表I-3-3）。

表I-3-1 学年と家計の状況のクロス

	合計	家計の状況						
		黒字であり毎月貯金 をしている	黒字ではあるが貯金 はしていない	黒字でも赤字でもな くぎりぎりである	赤字であり貯金をと りくずしている	赤字であり借金をし て生活している	不明	
全体	6,852 100.0%	2,125 31.0%	536 7.8%	2,750 40.1%	648 9.5%	491 7.2%	302 4.4%	
学 年	小学2年生	1,887 100.0%	663 35.1%	150 7.9%	707 37.5%	165 8.7%	129 6.8%	73 3.9%
	小学5年生	1,970 100.0%	653 33.1%	151 7.7%	770 39.1%	186 9.4%	133 6.8%	77 3.9%
	中学2年生	1,729 100.0%	499 28.9%	136 7.9%	713 41.2%	177 10.2%	124 7.2%	80 4.6%
	高校2年生	1,266 100.0%	310 24.5%	99 7.8%	560 44.2%	120 9.5%	105 8.3%	72 5.7%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-3-2 世帯類型と家計の状況のクロス

	合 計	家 計 の 状 況						
		黒字であり毎月貯金 をしている	黒字ではあるが貯金 はしていない	黒字でも赤字でもな くギリギリである	赤字であり貯金をと りくずしている	赤字であり借金をし て生活している	不明	
全 体	6,852 100.0%	2,125 31.0%	536 7.8%	2,750 40.1%	648 9.5%	491 7.2%	302 4.4%	
世帯 類型	ひとり親世帯	1,047 100.0%	183 17.5%	53 5.1%	515 49.2%	141 13.5%	117 11.2%	38 3.6%
	ふたり親世帯	5,661 100.0%	1,923 34.0%	475 8.4%	2,201 38.9%	499 8.8%	367 6.5%	196 3.5%
	その他世帯	71 100.0%	16 22.5%	7 9.9%	29 40.8%	7 9.9%	6 8.5%	6 8.5%
	不 明	73 100.0%	3 4.1%	1 1.4%	5 6.8%	1 1.4%	1 1.4%	62 84.9%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-3-3 所得階層と家計の状況のクロス

	合 計	家 計 の 状 況						
		黒字であり毎月貯金 をしている	黒字ではあるが貯金 はしていない	黒字でも赤字でもな くギリギリである	赤字であり貯金をと りくずしている	赤字であり借金をし て生活している	不明	
全 体	6,852 100.0%	2,125 31.0%	536 7.8%	2,750 40.1%	648 9.5%	491 7.2%	302 4.4%	
所得 階層	低所得層Ⅰ	1,128 100.0%	97 8.6%	53 4.7%	546 48.4%	202 17.9%	203 18.0%	27 2.4%
	低所得層Ⅱ	1,206 100.0%	181 15.0%	95 7.9%	615 51.0%	171 14.2%	129 10.7%	15 1.2%
	中間所得層Ⅰ	1,137 100.0%	290 25.5%	104 9.1%	553 48.6%	115 10.1%	55 4.8%	20 1.8%
	中間所得層Ⅱ	1,743 100.0%	733 42.1%	165 9.5%	651 37.3%	99 5.7%	61 3.5%	34 2.0%
	上位所得層	987 100.0%	676 68.5%	86 8.7%	181 18.3%	18 1.8%	17 1.7%	9 0.9%
	不 明	651 100.0%	148 22.7%	33 5.1%	204 31.3%	43 6.6%	26 4.0%	197 30.3%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

過去1年間に経済的な理由で「電気、ガス、水道のいずれかの料金」の支払いができなかったことがあるかをたずねた。(表I-3-4、表I-3-5、表I-3-6)。

学年別、世帯類型別、所得階層別のいずれにおいても、支払えないことが「なかった」という回答が7～9割と最も多い。

しかし、ふたり親世帯よりもひとり親世帯で、また、所得の低い階層の方が支払えないことが「あった」という回答割合が高く、ひとり親世帯の15.1%、低所得層1の23.0%で、支払いができなかった経験がある。

表I-3-4 学年と電気、ガス、水道の支払い滞納状況のクロス

		合 計	電気、ガス、水道の支払い滞納状況			
			あ っ た	な かつ た	払う必要がない	不 明
全 体		6,852 100.0%	494 7.2%	6,057 88.4%	110 1.6%	191 2.8%
学 年	小 学 2 年 生	1,887 100.0%	137 7.3%	1,686 89.3%	21 1.1%	43 2.3%
	小 学 5 年 生	1,970 100.0%	134 6.8%	1,752 88.9%	45 2.3%	39 2.0%
	中 学 2 年 生	1,729 100.0%	126 7.3%	1,518 87.8%	22 1.3%	63 3.6%
	高 校 2 年 生	1,266 100.0%	97 7.7%	1,101 87.0%	22 1.7%	46 3.6%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表I-3-5 世帯類型と電気、ガス、水道の支払い滞納状況のクロス

		合 計	電気、ガス、水道の支払い滞納状況			
			あ っ た	な かつ た	払う必要がない	不 明
全 体		6,852 100.0%	494 7.2%	6,057 88.4%	110 1.6%	191 2.8%
世 帯 類 型	ひ っ と り 親 世 帯	1,047 100.0%	158 15.1%	820 78.3%	37 3.5%	32 3.1%
	ふ っ た り 親 世 帯	5,661 100.0%	325 5.7%	5,174 91.4%	68 1.2%	94 1.7%
	そ の 他 世 帯	71 100.0%	10 14.1%	51 71.8%	5 7.0%	5 7.0%
	不 明	73 100.0%	1 1.4%	12 16.4%	0 0.0%	60 82.2%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 3 - 6 所得階層と電気、ガス、水道の支払い滞納状況のクロス

		合 計	電気、ガス、水道の支払い滞納状況			
			あ っ た	な かつ た	払う必要がない	不 明
全 体		6,852 100.0%	494 7.2%	6,057 88.4%	110 1.6%	191 2.8%
所 得 階 層	低 所 得 層 I	1,128 100.0%	259 23.0%	814 72.2%	28 2.5%	27 2.4%
	低 所 得 層 II	1,206 100.0%	110 9.1%	1,057 87.6%	25 2.1%	14 1.2%
	中 間 所 得 層 I	1,137 100.0%	58 5.1%	1,063 93.5%	12 1.1%	4 0.4%
	中 間 所 得 層 II	1,743 100.0%	38 2.2%	1,675 96.1%	20 1.1%	10 0.6%
	上 位 所 得 層	987 100.0%	7 0.7%	963 97.6%	12 1.2%	5 0.5%
	不 明	651 100.0%	22 3.4%	485 74.5%	13 2.0%	131 20.1%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 3 - 7、表 I - 3 - 8、表 I - 3 - 9 は、「あなたは、今後の生活（経済的・子育てなど）に対して不安を感じていますか」に対する回答である。全体で見ると、「感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせて66.3%を占め、これは学年別でも同様である（表 I - 3 - 7）。ふたり親世帯よりもひとり親世帯で、また、所得の低い階層になるほど「感じている」という回答の割合が高くなり、ひとり親世帯、低所得層 I では半数を超える（ひとり親世帯では50.4%、低所得層 I では55.7%）（表 I - 3 - 8、表 I - 3 - 9）。

表 I-3-7 学年と今後の生活への不安のクロス

		合 計	今後の生活への不安					不 明
			感 じ て い る	ど ち ら か と い え ば 感 じ て い る	ど ち ら と も い え な い	い な い ど ち ら か と い え ば 感 じ て い な い	感 じ て い な い	
全 体		6,852 100.0%	2,425 35.4%	2,117 30.9%	1,077 15.7%	500 7.3%	556 8.1%	177 2.6%
学 年	小学 2 年生	1,887 100.0%	631 33.4%	584 30.9%	300 15.9%	146 7.7%	184 9.8%	42 2.2%
	小学 5 年生	1,970 100.0%	658 33.4%	637 32.3%	318 16.1%	154 7.8%	163 8.3%	40 2.0%
	中学 2 年生	1,729 100.0%	634 36.7%	534 30.9%	268 15.5%	123 7.1%	115 6.7%	55 3.2%
	高校 2 年生	1,266 100.0%	502 39.7%	362 28.6%	191 15.1%	77 6.1%	94 7.4%	40 3.2%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-3-8 世帯類型と今後の生活への不安のクロス

		合 計	今後の生活への不安					不 明
			感 じ て い る	ど ち ら か と い え ば 感 じ て い る	ど ち ら と も い え な い	い な い ど ち ら か と い え ば 感 じ て い な い	感 じ て い な い	
全 体		6,852 100.0%	2,425 35.4%	2,117 30.9%	1,077 15.7%	500 7.3%	556 8.1%	177 2.6%
世 帯 類 型	ひとり親世帯	1,047 100.0%	528 50.4%	291 27.8%	110 10.5%	48 4.6%	51 4.9%	19 1.8%
	ふたり親世帯	5,661 100.0%	1,863 32.9%	1,808 31.9%	951 16.8%	447 7.9%	497 8.8%	95 1.7%
	その他世帯	71 100.0%	30 42.3%	14 19.7%	14 19.7%	5 7.0%	5 7.0%	3 4.2%
	不 明	73 100.0%	4 5.5%	4 5.5%	2 2.7%	0 0.0%	3 4.1%	60 82.2%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-3-9 所得階層と今後の生活への不安のクロス

		合 計	今後の生活への不安					不 明
			感 じ て い る	ど ち ら か と い え ば 感 じ て い る	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば 感 じ て い な い	感 じ て い な い	
全 体		6,852 100.0%	2,425 35.4%	2,117 30.9%	1,077 15.7%	500 7.3%	556 8.1%	177 2.6%
所 得 階 層	低 所 得 層 I	1,128 100.0%	628 55.7%	295 26.2%	118 10.5%	35 3.1%	43 3.8%	9 0.8%
	低 所 得 層 II	1,206 100.0%	554 45.9%	350 29.0%	174 14.4%	58 4.8%	62 5.1%	8 0.7%
	中 間 所 得 層 I	1,137 100.0%	428 37.6%	386 33.9%	172 15.1%	61 5.4%	88 7.7%	2 0.2%
	中 間 所 得 層 II	1,743 100.0%	484 27.8%	605 34.7%	324 18.6%	159 9.1%	163 9.4%	8 0.5%
	上 位 所 得 層	987 100.0%	164 16.6%	321 32.5%	186 18.8%	153 15.5%	156 15.8%	7 0.7%
	不 明	651 100.0%	167 25.7%	160 24.6%	103 15.8%	34 5.2%	44 6.8%	143 22.0%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

4 健康について

(1) 保護者の健康状況

「健康である」と答えた人の割合は、学年が高いほどやや低い。(表 I - 4 - 1)

ひとり親世帯の方がふたり親世帯に比べて、「健康である」と答えた人の割合が低く、通院している人や通院していないが体調の悪い人の割合が高い。障害認定を受けている人の割合も高い。(表 I - 4 - 2)

低所得層 I では他の階層と比べて、「健康である」と答えた人の割合が低く、通院している人や通院していないが体調の悪い人の割合が高い。障害認定を受けている人の割合も高い。(表 I - 4 - 3)

表 I - 4 - 1 学年と保護者の健康状態のクロス

		合計	保護者の健康状態 (※複数回答)							
			健康である	通院している	入院中である	調が悪い 通院していないが体	障がい認定を受けている (難病をのぞく)	指定難病の認定を受けている	その他	不明
全 体		6,852 -	5,329 77.8%	1,216 17.7%	4 0.1%	234 3.4%	50 0.7%	50 0.7%	45 0.7%	76 1.1%
学 年	小学 2 年生	1,887 -	1,556 82.5%	242 12.8%	2 0.1%	63 3.3%	11 0.6%	15 0.8%	14 0.7%	13 0.7%
	小学 5 年生	1,970 -	1,544 78.4%	342 17.4%	1 0.1%	67 3.4%	17 0.9%	15 0.8%	15 0.8%	16 0.8%
	中学 2 年生	1,729 -	1,309 75.7%	339 19.6%	0 0.0%	55 3.2%	15 0.9%	8 0.5%	11 0.6%	29 1.7%
	高校 2 年生	1,266 -	920 72.7%	293 23.1%	1 0.1%	49 3.9%	7 0.6%	12 0.9%	5 0.4%	18 1.4%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 4 - 2 世帯類型と保護者の健康状態のクロス

	合計	保護者の健康状態（※複数回答）								
		健康である	通院している	入院中である	調が悪い 通院していないが体	障がい認定を受けている（難病をのぞく）	指定難病の認定を受けている	その他	不明	
全体	6,852 -	5,329 77.8%	1,216 17.7%	4 0.1%	234 3.4%	50 0.7%	50 0.7%	45 0.7%	76 1.1%	
世帯類型	ひとり親世帯	1,047 -	687 65.6%	283 27.0%	2 0.2%	58 5.5%	19 1.8%	10 1.0%	11 1.1%	7 0.7%
	ふたり親世帯	5,661 -	4,572 80.8%	915 16.2%	2 0.0%	174 3.1%	31 0.5%	40 0.7%	33 0.6%	14 0.2%
	その他世帯	71 -	54 76.1%	17 23.9%	0 0.0%	2 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	不明	73 -	16 21.9%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	55 75.3%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 4 - 3 所得階層と保護者の健康状態のクロス

	合計	保護者の健康状態（※複数回答）								
		健康である	通院している	入院中である	調が悪い 通院していないが体	障がい認定を受けている（難病をのぞく）	指定難病の認定を受けている	その他	不明	
全体	6,852 -	5,329 77.8%	1,216 17.7%	4 0.1%	234 3.4%	50 0.7%	50 0.7%	45 0.7%	76 1.1%	
所得階層	低所得層Ⅰ	1,128 -	782 69.3%	269 23.8%	2 0.2%	63 5.6%	23 2.0%	10 0.9%	12 1.1%	2 0.2%
	低所得層Ⅱ	1,206 -	951 78.9%	209 17.3%	0 0.0%	44 3.6%	6 0.5%	12 1.0%	11 0.9%	1 0.1%
	中間所得層Ⅰ	1,137 -	887 78.0%	208 18.3%	1 0.1%	44 3.9%	6 0.5%	11 1.0%	4 0.4%	2 0.2%
	中間所得層Ⅱ	1,743 -	1,429 82.0%	271 15.5%	1 0.1%	44 2.5%	7 0.4%	9 0.5%	6 0.3%	4 0.2%
	上位所得層	987 -	810 82.1%	169 17.1%	0 0.0%	14 1.4%	4 0.4%	5 0.5%	7 0.7%	0 0.0%
	不明	651 -	470 72.2%	90 13.8%	0 0.0%	25 3.8%	4 0.6%	3 0.5%	5 0.8%	67 10.3%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

(2) 保護者の心の健康状態

保護者に対し過去1か月の心の状態を聞く設問に対する回答を得点化したものである。高いほど心の健康状態に問題があり、10点以上ではうつ病や不安障害などの可能性がある。

いずれの学年でも、10点以上の人が9%程度ある。(表I-4-4)

ひとり親世帯の方がふたり親世帯に比べて、10点以上の人割合が高い。(表I-4-5)

所得階層が低いほど、10点以上の人割合が高く、低所得層I(16.6%)では上位所得層(5.1%)の3倍以上である。(表I-4-6)

表I-4-4 学年と保護者の心の健康状態のクロス

		合 計	保護者の心の健康状態				
			0～4点	5～9点	10～14点	15点以上	不 明
全 体		6,852 100.0%	4,758 69.4%	1,162 17.0%	436 6.4%	201 2.9%	295 4.3%
学 年	小学2年生	1,887 100.0%	1,322 70.1%	317 16.8%	121 6.4%	54 2.9%	73 3.9%
	小学5年生	1,970 100.0%	1,377 69.9%	334 17.0%	130 6.6%	63 3.2%	66 3.4%
	中学2年生	1,729 100.0%	1,186 68.6%	302 17.5%	108 6.2%	49 2.8%	84 4.9%
	高校2年生	1,266 100.0%	873 69.0%	209 16.5%	77 6.1%	35 2.8%	72 5.7%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答した選択肢より分類

表I-4-5 世帯類型と保護者の心の健康状態のクロス

		合 計	保護者の心の健康状態				
			0～4点	5～9点	10～14点	15点以上	不 明
全 体		6,852 100.0%	4,758 69.4%	1,162 17.0%	436 6.4%	201 2.9%	295 4.3%
世 帯 類 型	ひとり親世帯	1,047 100.0%	641 61.2%	199 19.0%	99 9.5%	64 6.1%	44 4.2%
	ふたり親世帯	5,661 100.0%	4,063 71.8%	942 16.6%	332 5.9%	135 2.4%	189 3.3%
	その他世帯	71 100.0%	43 60.6%	21 29.6%	2 2.8%	2 2.8%	3 4.2%
	不 明	73 100.0%	11 15.1%	0 0.0%	3 4.1%	0 0.0%	59 80.8%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答した選択肢より分類

表 I - 4 - 6 所得階層と保護者の心の健康状態のクロス

		合 計	保護者の心の健康状態				
			0～4点	5～9点	10～14点	15点以上	不 明
全 体		6,852 100.0%	4,758 69.4%	1,162 17.0%	436 6.4%	201 2.9%	295 4.3%
所得階層	低所得層 I	1,128 100.0%	660 58.5%	234 20.7%	110 9.8%	77 6.8%	47 4.2%
	低所得層 II	1,206 100.0%	834 69.2%	206 17.1%	93 7.7%	37 3.1%	36 3.0%
	中間所得層 I	1,137 100.0%	816 71.8%	197 17.3%	66 5.8%	33 2.9%	25 2.2%
	中間所得層 II	1,743 100.0%	1,309 75.1%	271 15.5%	92 5.3%	25 1.4%	46 2.6%
	上位所得層	987 100.0%	759 76.9%	161 16.3%	37 3.7%	14 1.4%	16 1.6%
	不 明	651 100.0%	380 58.4%	93 14.3%	38 5.8%	15 2.3%	125 19.2%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答した選択肢より分類

(3) 子どもの健康状況

保護者からみた子どもの健康状態を答えたものである。

「健康である」子どもが89.0%を占めるが、通院している病気がある子ども（7.5%）、障がいの認定を受けている子ども（3.3%）、発達に遅れのある子ども（2.1%）も少なくはない。高校2年生で障がいの認定を受けている子どもの割合が少ないのは、対象に特別支援学校が含まれていないためと思われる（小・中学校のデータには特別支援学級の子どもが含まれている）。通院している病気がある子どもの割合は学年による違いはない。（表 I - 4 - 7）

ひとり親世帯の方がふたり親世帯に比べて、「健康である」子どもの割合が低く、通院している病気がある子ども、障がいの認定を受けている子ども、発達に遅れのある子どもの割合が高い。（表 I - 4 - 8）

所得階層が低いほど、「健康である」子どもの割合が低く、通院している病気がある子ども、障がいの認定を受けている子ども、発達に遅れのある子どもの割合が高い。（表 I - 4 - 9）

表 I-4-7 学年と子どもの健康状態のクロス

		合 計	子どもの健康状態（※複数回答）								
			健康である	ある 通院している病気が	入院している	調が悪い 通院していないが体	障がい認定を受けて いる（難病をのぞく）	指定難病の認定を受 けている	発達に遅れがある	その他	不明
全 体		6,852 -	6,098 89.0%	516 7.5%	1 0.0%	64 0.9%	224 3.3%	25 0.4%	144 2.1%	87 1.3%	62 0.9%
学 年	小学 2 年 生	1,887 -	1,702 90.2%	143 7.6%	0 0.0%	2 0.1%	64 3.4%	2 0.1%	58 3.1%	21 1.1%	17 0.9%
	小学 5 年 生	1,970 -	1,764 89.5%	136 6.9%	0 0.0%	10 0.5%	85 4.3%	10 0.5%	52 2.6%	29 1.5%	16 0.8%
	中学 2 年 生	1,729 -	1,528 88.4%	130 7.5%	1 0.1%	24 1.4%	61 3.5%	6 0.3%	28 1.6%	21 1.2%	16 0.9%
	高校 2 年 生	1,266 -	1,104 87.2%	107 8.5%	0 0.0%	28 2.2%	14 1.1%	7 0.6%	6 0.5%	16 1.3%	13 1.0%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-4-8 世帯類型と子どもの健康状態のクロス

		合 計	子どもの健康状態（※複数回答）								
			健康である	ある 通院している病気が	入院している	調が悪い 通院していないが体	障がい認定を受けて いる（難病をのぞく）	指定難病の認定を受 けている	発達に遅れがある	その他	不明
全 体		6,852 -	6,098 89.0%	516 7.5%	1 0.0%	64 0.9%	224 3.3%	25 0.4%	144 2.1%	87 1.3%	62 0.9%
世 帯 類 型	ひとり親世帯	1,047 -	880 84.0%	105 10.0%	1 0.1%	17 1.6%	57 5.4%	2 0.2%	36 3.4%	17 1.6%	9 0.9%
	ふたり親世帯	5,661 -	5,122 90.5%	405 7.2%	0 0.0%	46 0.8%	156 2.8%	23 0.4%	103 1.8%	68 1.2%	20 0.4%
	その他世帯	71 -	64 90.1%	4 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	3 4.2%	0 0.0%	4 5.6%	2 2.8%	0 0.0%
	不 明	73 -	32 43.8%	2 2.7%	0 0.0%	1 1.4%	8 11.0%	0 0.0%	1 1.4%	0 0.0%	33 45.2%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-4-9 所得階層と子どもの健康状態のクロス

	合計	子どもの健康状態（※複数回答）									
		健康である	ある 通院している病気が	入院している	調が悪い 通院していないが体	障がい認定を受けて いる（難病をのぞく）	指定難病の認定を受 けている	発達に遅れがある	その他	不明	
全体	6,852 -	6,098 89.0%	516 7.5%	1 0.0%	64 0.9%	224 3.3%	25 0.4%	144 2.1%	87 1.3%	62 0.9%	
所得階層	低所得層Ⅰ	1,128 -	961 85.2%	110 9.8%	1 0.1%	18 1.6%	56 5.0%	4 0.4%	47 4.2%	20 1.8%	7 0.6%
	低所得層Ⅱ	1,206 -	1,077 89.3%	94 7.8%	0 0.0%	14 1.2%	53 4.4%	1 0.1%	30 2.5%	16 1.3%	5 0.4%
	中間所得層Ⅰ	1,137 -	1,023 90.0%	88 7.7%	0 0.0%	11 1.0%	28 2.5%	7 0.6%	25 2.2%	11 1.0%	4 0.4%
	中間所得層Ⅱ	1,743 -	1,581 90.7%	120 6.9%	0 0.0%	16 0.9%	50 2.9%	6 0.3%	30 1.7%	21 1.2%	2 0.1%
	上位所得層	987 -	908 92.0%	67 6.8%	0 0.0%	1 0.1%	18 1.8%	4 0.4%	5 0.5%	6 0.6%	1 0.1%
	不明	651 -	548 84.2%	37 5.7%	0 0.0%	4 0.6%	19 2.9%	3 0.5%	7 1.1%	13 2.0%	43 6.6%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

(4) 子どもに必要な病院受診をさせなかった経験

「子どもが受診する必要があったのに受診をさせなかった」経験のある人は15.5%であり、中学2年生でやや高い。(表I-4-10)

ひとり親世帯の方がふたり親世帯に比べて、「子どもが受診する必要があったのに受診をさせなかった」経験のある人の割合が高い。(表I-4-11)

所得階層が低いほど、「子どもが受診する必要があったのに受診をさせなかった」経験のある人の割合が高く、低所得層Ⅰ(24.0%)では中間所得層Ⅱ(10.9%)や上位所得層(10.6%)の2倍以上である。(表I-4-12)

表I-4-10 学年と子どもに必要な病院受診をさせなかった経験のクロス

		合 計	子どもに必要な病院受診をさせなかった経験		
			あ っ た	な かつ た	不 明
全 体		6,852 100.0%	1,062 15.5%	5,704 83.2%	86 1.3%
学 年	小 学 2 年 生	1,887 100.0%	269 14.3%	1,600 84.8%	18 1.0%
	小 学 5 年 生	1,970 100.0%	310 15.7%	1,640 83.2%	20 1.0%
	中 学 2 年 生	1,729 100.0%	288 16.7%	1,413 81.7%	28 1.6%
	高 校 2 年 生	1,266 100.0%	195 15.4%	1,051 83.0%	20 1.6%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表I-4-11 世帯類型と子どもに必要な病院受診をさせなかった経験のクロス

		合 計	子どもに必要な病院受診をさせなかった経験		
			あ っ た	な かつ た	不 明
全 体		6,852 100.0%	1,062 15.5%	5,704 83.2%	86 1.3%
世 帯 類 型	ひ っ と り 親 世 帯	1,047 100.0%	237 22.6%	801 76.5%	9 0.9%
	ふ た り 親 世 帯	5,661 100.0%	810 14.3%	4,825 85.2%	26 0.5%
	そ の 他 世 帯	71 100.0%	13 18.3%	58 81.7%	0 0.0%
	不 明	73 100.0%	2 2.7%	20 27.4%	51 69.9%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表I-4-12 所得階層と子どもに必要な病院受診をさせなかった経験のクロス

		合 計	子どもに必要な病院受診をさせなかった経験		
			あ っ た	な かつ た	不 明
全 体		6,852 100.0%	1,062 15.5%	5,704 83.2%	86 1.3%
所 得 階 層	低 所 得 層 I	1,128 100.0%	271 24.0%	851 75.4%	6 0.5%
	低 所 得 層 II	1,206 100.0%	236 19.6%	965 80.0%	5 0.4%
	中 間 所 得 層 I	1,137 100.0%	179 15.7%	952 83.7%	6 0.5%
	中 間 所 得 層 II	1,743 100.0%	190 10.9%	1,550 88.9%	3 0.2%
	上 位 所 得 層	987 100.0%	105 10.6%	880 89.2%	2 0.2%
	不 明	651 100.0%	81 12.4%	506 77.7%	64 9.8%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

(5) 自身が必要な病院受診をしなかった経験

回答者自身が「受診をする必要があったのに受診をしなかった」経験のある人は28.8%である。この割合は、子どもに必要な受診をさせなかった経験のある人(表I-4-10; 15.5%)よりも高い。(表I-4-13)

ひとり親世帯の方がふたり親世帯に比べて、回答者自身が「受診をする必要があったのに受診をしなかった」経験のある人の割合が高い。(表I-4-14)

所得階層が低いほど、回答者自身が「受診をする必要があったのに受診をしなかった」経験のある人の割合が高く、低所得層Iでは44.5%にも上る。(表I-4-15)

表I-4-13 学年と自身が必要な病院受診をしなかった経験のクロス

		合 計	自身が必要な病院受診をしなかった経験		
			あ っ た	な かつ た	不 明
全 体		6,852 100.0%	1,974 28.8%	4,787 69.9%	91 1.3%
学 年	小 学 2 年 生	1,887 100.0%	637 33.8%	1,234 65.4%	16 0.8%
	小 学 5 年 生	1,970 100.0%	605 30.7%	1,342 68.1%	23 1.2%
	中 学 2 年 生	1,729 100.0%	442 25.6%	1,256 72.6%	31 1.8%
	高 校 2 年 生	1,266 100.0%	290 22.9%	955 75.4%	21 1.7%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表I-4-14 世帯類型と自身が必要な病院受診をしなかった経験のクロス

		合 計	自身が必要な病院受診をしなかった経験		
			あ っ た	な かつ た	不 明
全 体		6,852 100.0%	1,974 28.8%	4,787 69.9%	91 1.3%
世 帯 類 型	ひ と り 親 世 帯	1,047 100.0%	393 37.5%	646 61.7%	8 0.8%
	ふ た り 親 世 帯	5,661 100.0%	1,556 27.5%	4,075 72.0%	30 0.5%
	そ の 他 世 帯	71 100.0%	22 31.0%	48 67.6%	1 1.4%
	不 明	73 100.0%	3 4.1%	18 24.7%	52 71.2%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 4 - 15 所得階層と自身が必要な病院受診をしなかった経験のクロス

		合 計	自身が必要な病院受診をしなかった経験		
			あ っ た	な かつ た	不 明
全 体		6,852 100.0%	1,974 28.8%	4,787 69.9%	91 1.3%
所 得 階 層	低 所 得 層 I	1,128 100.0%	502 44.5%	621 55.1%	5 0.4%
	低 所 得 層 II	1,206 100.0%	424 35.2%	778 64.5%	4 0.3%
	中 間 所 得 層 I	1,137 100.0%	317 27.9%	816 71.8%	4 0.4%
	中 間 所 得 層 II	1,743 100.0%	380 21.8%	1,359 78.0%	4 0.2%
	上 位 所 得 層	987 100.0%	194 19.7%	790 80.0%	3 0.3%
	不 明	651 100.0%	157 24.1%	423 65.0%	71 10.9%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

5 進学について

(1) 子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか（小5・中2保護者）

小5・中2の保護者の回答者のうち「四年制大学またはそれ以上」と回答する者は33.4%、「高校」と回答する者は17.8%となっている（表I-5-1）。

世帯類型別にみると、「ひとり親世帯」ほど、「四年制大学またはそれ以上」と回答する者が少ない一方、「高校」までとする者の割合が高い（表I-5-2）。

所得階層別では、所得階層が高くなるほど、「四年制大学またはそれ以上」と回答している。具体的には、「低所得層Ⅰ」では17.8%である一方、「上位所得層」では60.5%と6割を超えている。他方で、所得階層が低くなるほど、「高校」と回答する者が多くなっている。具体的には、「上位所得層」では5.4%であるのに対し、「低所得層Ⅰ」では31.8%と3割を超えている（表I-5-3）。

表I-5-1 学年と子どもにどの段階まで教育を受けさせたいかのクロス

		合 計	子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか								
			中 学	高 校	高 等 専 門 学 校	短 大	専 門 学 校	れ 以 上 四 年 制 大 学 ま た は そ	ま だ わ か ら な い	そ の 他	不 明
全 体		3,699 100.0%	1 0.0%	657 17.8%	91 2.5%	122 3.3%	434 11.7%	1,235 33.4%	923 25.0%	120 3.2%	116 3.1%
学 年	小 学 5 年 生	1,970 100.0%	0 0.0%	328 16.6%	45 2.3%	65 3.3%	226 11.5%	676 34.3%	513 26.0%	61 3.1%	56 2.8%
	中 学 2 年 生	1,729 100.0%	1 0.1%	329 19.0%	46 2.7%	57 3.3%	208 12.0%	559 32.3%	410 23.7%	59 3.4%	60 3.5%

※小5、中2の保護者が回答

表I-5-2 世帯類型と子どもにどの段階まで教育を受けさせたいかのクロス

	合計	子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか									
		中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	れ以上 四年制大学またはそ	まだわからない	その他	不明	
全 体	3,699 100.0%	1 0.0%	657 17.8%	91 2.5%	122 3.3%	434 11.7%	1,235 33.4%	923 25.0%	120 3.2%	116 3.1%	
世帯 類 型	ひとり親世帯	575 100.0%	1 0.2%	147 25.6%	29 5.0%	13 2.3%	81 14.1%	140 24.3%	135 23.5%	10 1.7%	19 3.3%
	ふたり親世帯	3,041 100.0%	0 0.0%	494 16.2%	60 2.0%	107 3.5%	344 11.3%	1,088 35.8%	779 25.6%	108 3.6%	61 2.0%
	その他世帯	42 100.0%	0 0.0%	15 35.7%	2 4.8%	2 4.8%	8 19.0%	6 14.3%	6 14.3%	0 0.0%	3 7.1%
	不 明	41 100.0%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	1 2.4%	3 7.3%	2 4.9%	33 80.5%

※小5、中2の保護者が回答

表I-5-3 所得階層と子どもにどの段階まで教育を受けさせたいかのクロス

	合計	子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか									
		中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	れ以上 四年制大学またはそ	まだわからない	その他	不明	
全 体	3,699 100.0%	1 0.0%	657 17.8%	91 2.5%	122 3.3%	434 11.7%	1,235 33.4%	923 25.0%	120 3.2%	116 3.1%	
所 得 階 層	低所得層Ⅰ	578 100.0%	1 0.2%	184 31.8%	23 4.0%	20 3.5%	82 14.2%	103 17.8%	136 23.5%	14 2.4%	15 2.6%
	低所得層Ⅱ	652 100.0%	0 0.0%	167 25.6%	20 3.1%	30 4.6%	87 13.3%	131 20.1%	180 27.6%	18 2.8%	19 2.9%
	中間所得層Ⅰ	612 100.0%	0 0.0%	111 18.1%	17 2.8%	21 3.4%	72 11.8%	185 30.2%	175 28.6%	21 3.4%	10 1.6%
	中間所得層Ⅱ	982 100.0%	0 0.0%	112 11.4%	20 2.0%	34 3.5%	115 11.7%	410 41.8%	239 24.3%	31 3.2%	21 2.1%
	上位所得層	537 100.0%	0 0.0%	29 5.4%	6 1.1%	9 1.7%	46 8.6%	325 60.5%	93 17.3%	20 3.7%	9 1.7%
	不 明	338 100.0%	0 0.0%	54 16.0%	5 1.5%	8 2.4%	32 9.5%	81 24.0%	100 29.6%	16 4.7%	42 12.4%

※小5、中2の保護者が回答

(2) 高校卒業後の進路についてどのように考えているか (高2保護者)

高2の保護者の回答者のうち「四年制大学進学」と回答する者は33.2%、「就職」と回答する者は20.9%となっている(表I-5-4)。

世帯類型別にみると、「ひとり親世帯」ほど、「四年制大学またはそれ以上」と回答する者が少ない一方、「就職」「まだわからない」までとする者の割合が高い(表I-5-5)。

所得階層別にみると、おおよそ所得階層が高いほど、「四年制大学進学」と回答している。「低所得層I」では19.7%である一方、「上位所得層」では59.6%と6割に迫る。他方、所得階層が低くなると、「就職」「まだわからない」と回答する傾向がみられる(表I-5-6)。

表I-5-4 学年と高校卒業後の進路についてどのように考えているかのクロス

		合 計	高校卒業後の進路についてどのように考えているか						
			就 職	短 大 進 学	専 門 学 校 進 学	四 年 制 大 学 進 学	ま だ わ か ら な い	そ の 他	不 明
全 体		1,266 100.0%	264 20.9%	45 3.6%	266 21.0%	420 33.2%	227 17.9%	9 0.7%	35 2.8%
学 年	高 校 2 年 生	1,266 100.0%	264 20.9%	45 3.6%	266 21.0%	420 33.2%	227 17.9%	9 0.7%	35 2.8%

※高2の保護者が回答

表I-5-5 世帯類型と高校卒業後の進路についてどのように考えているかのクロス

		合 計	高校卒業後の進路についてどのように考えているか						
			就 職	短 大 進 学	専 門 学 校 進 学	四 年 制 大 学 進 学	ま だ わ か ら な い	そ の 他	不 明
全 体		1,266 100.0%	264 20.9%	45 3.6%	266 21.0%	420 33.2%	227 17.9%	9 0.7%	35 2.8%
世 帯 類 型	ひとり親世帯	262 100.0%	63 24.0%	14 5.3%	56 21.4%	63 24.0%	56 21.4%	3 1.1%	7 2.7%
	ふたり親世帯	973 100.0%	197 20.2%	29 3.0%	203 20.9%	355 36.5%	166 17.1%	6 0.6%	17 1.7%
	その他世帯	13 100.0%	2 15.4%	2 15.4%	5 38.5%	1 7.7%	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%
	不 明	18 100.0%	2 11.1%	0 0.0%	2 11.1%	1 5.6%	2 11.1%	0 0.0%	11 61.1%

※高2の保護者が回答

表 I-5-6 所得階層と高校卒業後の進路についてどのように考えているかのクロス

		合 計	高校卒業後の進路についてどのように考えているか						
			就 職	短 大 進 学	専 門 学 校 進 学	四 年 制 大 学 進 学	ま だ わ か ら な い	そ の 他	不 明
全 体		1,266 100.0%	264 20.9%	45 3.6%	266 21.0%	420 33.2%	227 17.9%	9 0.7%	35 2.8%
所 得 階 層	低 所 得 層 I	229 100.0%	74 32.3%	10 4.4%	43 18.8%	45 19.7%	51 22.3%	1 0.4%	5 2.2%
	低 所 得 層 II	212 100.0%	57 26.9%	9 4.2%	58 27.4%	40 18.9%	41 19.3%	1 0.5%	6 2.8%
	中 間 所 得 層 I	186 100.0%	43 23.1%	8 4.3%	43 23.1%	55 29.6%	36 19.4%	1 0.5%	0 0.0%
	中 間 所 得 層 II	293 100.0%	53 18.1%	9 3.1%	61 20.8%	117 39.9%	46 15.7%	3 1.0%	4 1.4%
	上 位 所 得 層	208 100.0%	14 6.7%	5 2.4%	33 15.9%	124 59.6%	30 14.4%	1 0.5%	1 0.5%
	不 明	138 100.0%	23 16.7%	4 2.9%	28 20.3%	39 28.3%	23 16.7%	2 1.4%	19 13.8%

※高2の保護者が回答

(3) 教育を受けさせるためのお金の準備 (小5・中2保護者)

小5・中2の保護者の回答者のうち、「貯金や学資保険などで準備を始めている」が53.4%、「まったく目処はついていない」が23.3%となっている(表I-5-7)。

世帯類型別にみると、「ひとり親世帯」ほど、「貯金や学資保険などで準備を始めている」との回答が少なく、「時期になったら奨学金を利用する予定である」さらには「まったく目処はついていない」と回答している(表I-5-8)。

所得階層別では、所得階層が高いほど、「貯金や学資保険などで準備を始めている」と回答する傾向がみられる。例えば、「低所得層I」で25.6%であるのに対し、「上位所得層」では76.0%が回答している。さらに、「上位所得層」の14.2%が、すでに「必要なお金はすでに準備できている」と回答している。他方、所得階層が低くなれば、「時期になったら奨学金を利用する予定である」、さらには「まったく目処はついていない」と回答しやすい。特に、「低所得層I」では49.0%と半数に迫る方が「まったく目処はついていない」と回答している(表I-5-9)。

表I-5-7 学年と教育を受けさせるためのお金の準備のクロス

		合 計	教育を受けさせるためのお金の準備					不明
			備 で き て い る 必 要 な お 金 は す で に 準 備 でき て い る	貯 金 や 学 資 保 険 な ど で 準 備 を 始 め て い る	時 期 に な っ た ら 奨 学 金 を 利 用 す る 予 定 で あ る	い な い ま っ た く 目 処 は つ い て い な い	そ の 他	
全 体		3,699 100.0%	206 5.6%	1,974 53.4%	520 14.1%	863 23.3%	43 1.2%	93 2.5%
学 年	小学5年生	1,970 100.0%	94 4.8%	1,154 58.6%	196 9.9%	464 23.6%	17 0.9%	45 2.3%
	中学2年生	1,729 100.0%	112 6.5%	820 47.4%	324 18.7%	399 23.1%	26 1.5%	48 2.8%

※小5、中2の保護者が回答

表 I-5-8 世帯類型と教育を受けさせるためのお金の準備のクロス

	合計	教育を受けさせるためのお金の準備						
		備 で き て い る	必 要 な お 金 は す で に 準 備 を 始 め て い る	貯 金 や 学 資 保 険 な ど で 準 備 を 始 め て い る	時 期 に な っ た ら 奨 学 金 を 利 用 す る 予 定 で あ る	い な い	ま っ た く 目 処 は つ い て	そ の 他
全 体	3,699 100.0%	206 5.6%	1,974 53.4%	520 14.1%	863 23.3%	43 1.2%	93 2.5%	
世帯 類 型	ひとり親世帯	575 100.0%	29 5.0%	193 33.6%	113 19.7%	213 37.0%	11 1.9%	16 2.8%
	ふたり親世帯	3,041 100.0%	175 5.8%	1,760 57.9%	400 13.2%	636 20.9%	31 1.0%	39 1.3%
	その他世帯	42 100.0%	2 4.8%	16 38.1%	7 16.7%	13 31.0%	1 2.4%	3 7.1%
	不 明	41 100.0%	0 0.0%	5 12.2%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	35 85.4%

※小5、中2の保護者が回答

表 I-5-9 所得階層と教育を受けさせるためのお金の準備のクロス

	合計	教育を受けさせるためのお金の準備						
		備 で き て い る	必 要 な お 金 は す で に 準 備 を 始 め て い る	貯 金 や 学 資 保 険 な ど で 準 備 を 始 め て い る	時 期 に な っ た ら 奨 学 金 を 利 用 す る 予 定 で あ る	い な い	ま っ た く 目 処 は つ い て	そ の 他
全 体	3,699 100.0%	206 5.6%	1,974 53.4%	520 14.1%	863 23.3%	43 1.2%	93 2.5%	
所 得 階 層	低所得層Ⅰ	578 100.0%	8 1.4%	148 25.6%	119 20.6%	283 49.0%	11 1.9%	9 1.6%
	低所得層Ⅱ	652 100.0%	22 3.4%	246 37.7%	118 18.1%	251 38.5%	7 1.1%	8 1.2%
	中間所得層Ⅰ	612 100.0%	24 3.9%	345 56.4%	94 15.4%	140 22.9%	3 0.5%	6 1.0%
	中間所得層Ⅱ	982 100.0%	59 6.0%	669 68.1%	136 13.8%	102 10.4%	7 0.7%	9 0.9%
	上位所得層	537 100.0%	76 14.2%	408 76.0%	18 3.4%	23 4.3%	8 1.5%	4 0.7%
	不 明	338 100.0%	17 5.0%	158 46.7%	35 10.4%	64 18.9%	7 2.1%	57 16.9%

※小5、中2の保護者が回答

6 相談相手・制度の利用について

(1) 子ども・子育てについての悩みを相談する相手

回答者のほとんどが何らかの相談相手を持っている。「相談する人はいない」と回答したものは2.1%である。相談相手は「同居の家族（74.6%）」「同居していない家族・親戚（60.8%）」が高い比率を示し、家族、親族が相談相手として選ばれることが一般的である。家族、親族以外では、「友人・知人（職場、近所以外）」が52.0%と多い。「近所の人（4.7%）」は少数にとどまる。これらは年齢・学年段階別に大きな違いはない。「学校の先生（20.7%）」は年齢・学年段階が低いほど比率が高い。「地域の相談員・相談機関（3.0%）」は少数であるが、小学2年生保護者にやや高い。「SNSのみで交流がある人（1.0%）」は少数である（表I-6-1）。

世帯類型別にみると、ひとり親世帯は「同居の家族」が25.9%と少なく、「相談する人はいない」が5.2%と相対的に高いことが特徴である。ふたり親世帯は「同居の家族」が84.5%と高いが、これは同時にふたり親世帯の約15%が、同居家族が相談相手として機能していないことを示す（表I-6-2）。

所得階層別にみると、「相談する人はいない」が、上位所得層では1.1%であるのに対し低所得層Iでは5.0%と、低所得層に相対的に高い。「医師等の専門家（5.3%）」は全体から見ると少数であるが、年齢、世帯類型、所得階層ごとの比率の差は小さく、子どものニーズに対応して機能していると考えられる（表I-6-3）。

表I-6-1 学年と子ども・子育てについての悩みを相談する相手のクロス

	合計	子ども・子育てについての悩みを相談する相手（※複数回答）												
		同居の家族	同居していない家族・親せき	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNSのみで交流がある人	その他	相談する人はいない	不明	
全体	6,852 -	5,111 74.6%	4,166 60.8%	2,364 34.5%	323 4.7%	3,561 52.0%	1,416 20.7%	203 3.0%	360 5.3%	67 1.0%	80 1.2%	147 2.1%	124 1.8%	
学年	小学2年生	1,887 -	1,492 79.1%	1,278 67.7%	663 35.1%	117 6.2%	1,052 55.7%	500 26.5%	89 4.7%	118 6.3%	28 1.5%	27 1.4%	21 1.1%	27 1.4%
	小学5年生	1,970 -	1,503 76.3%	1,254 63.7%	694 35.2%	100 5.1%	1,043 52.9%	439 22.3%	58 2.9%	114 5.8%	21 1.1%	17 0.9%	45 2.3%	29 1.5%
	中学2年生	1,729 -	1,241 71.8%	980 56.7%	594 34.4%	65 3.8%	878 50.8%	320 18.5%	35 2.0%	95 5.5%	11 0.6%	21 1.2%	42 2.4%	36 2.1%
	高校2年生	1,266 -	875 69.1%	654 51.7%	413 32.6%	41 3.2%	588 46.4%	157 12.4%	21 1.7%	33 2.6%	7 0.6%	15 1.2%	39 3.1%	32 2.5%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-6-2 世帯類型と子ども・子育てについての悩みを相談する相手のクロス

	合計	子ども・子育てについての悩みを相談する相手（※複数回答）												
		同居の家族	同居していない家族・親せき	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNSのみで交流がある人	その他	相談する人はいない	不明	
全体	6,852 -	5,111 74.6%	4,166 60.8%	2,364 34.5%	323 4.7%	3,561 52.0%	1,416 20.7%	203 3.0%	360 5.3%	67 1.0%	80 1.2%	147 2.1%	124 1.8%	
世帯類型	ひとり親世帯	1,047 -	271 25.9%	593 56.6%	446 42.6%	27 2.6%	554 52.9%	171 16.3%	42 4.0%	61 5.8%	12 1.1%	17 1.6%	54 5.2%	18 1.7%
	ふたり親世帯	5,661 -	4,783 84.5%	3,530 62.4%	1,890 33.4%	294 5.2%	2,976 52.6%	1,227 21.7%	157 2.8%	295 5.2%	55 1.0%	60 1.1%	88 1.6%	53 0.9%
	その他世帯	71 -	48 67.6%	38 53.5%	22 31.0%	2 2.8%	26 36.6%	15 21.1%	4 5.6%	4 5.6%	0 0.0%	1 1.4%	4 5.6%	0 0.0%
	不明	73 -	9 12.3%	5 6.8%	6 8.2%	0 0.0%	5 6.8%	3 4.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.7%	1 1.4%	53 72.6%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-6-3 所得階層と子ども・子育てについての悩みを相談する相手のクロス

	合計	子ども・子育てについての悩みを相談する相手（※複数回答）												
		同居の家族	同居していない家族・親せき	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNSのみで交流がある人	その他	相談する人はいない	不明	
全体	6,852 -	5,111 74.6%	4,166 60.8%	2,364 34.5%	323 4.7%	3,561 52.0%	1,416 20.7%	203 3.0%	360 5.3%	67 1.0%	80 1.2%	147 2.1%	124 1.8%	
所得階層	低所得層 I	1,128 -	555 49.2%	655 58.1%	364 32.3%	40 3.5%	575 51.0%	209 18.5%	56 5.0%	72 6.4%	14 1.2%	21 1.9%	56 5.0%	17 1.5%
	低所得層 II	1,206 -	906 75.1%	789 65.4%	384 31.8%	47 3.9%	616 51.1%	249 20.6%	37 3.1%	59 4.9%	6 0.5%	15 1.2%	21 1.7%	7 0.6%
	中間所得層 I	1,137 -	904 79.5%	684 60.2%	388 34.1%	57 5.0%	609 53.6%	233 20.5%	24 2.1%	60 5.3%	14 1.2%	14 1.2%	25 2.2%	6 0.5%
	中間所得層 II	1,743 -	1,467 84.2%	1,096 62.9%	662 38.0%	84 4.8%	986 56.6%	384 22.0%	45 2.6%	95 5.5%	21 1.2%	10 0.6%	17 1.0%	8 0.5%
	上位所得層	987 -	842 85.3%	615 62.3%	407 41.2%	63 6.4%	490 49.6%	227 23.0%	27 2.7%	55 5.6%	5 0.5%	11 1.1%	11 1.1%	3 0.3%
	不明	651 -	437 67.1%	327 50.2%	159 24.4%	32 4.9%	285 43.8%	114 17.5%	14 2.2%	19 2.9%	7 1.1%	9 1.4%	17 2.6%	83 12.7%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

(2) 制度利用の状況

【子ども食堂】

「利用したことがある・利用している」は4.3%で、全体の中では少数である（表I-6-4）。世帯類型別（表I-6-5）、所得階層別（表I-6-6）にみても利用状況に大きな差はない。「利用する必要がなかった」は67.0%で、全体の2/3を占める。世帯類型別には、ひとり親世帯、所得階層別には低所得層が「利用する必要がなかった」と回答する比率が低い。すなわち、ニーズの高い層ほど、「利用する必要があるが利用していない」ものが多いことが推察される。「必要がなかった」以外の利用していない理由は、「制度やサービスがなかった（12.3%）」「制度やサービスについて知らなかった（5.6%）」「利用の仕方がわからなかった（3.0%）」といったサービス共有と情報提供の問題に関わることが多い。「抵抗感があった（1.5%）」は全体では少数であるが、ひとり親世帯、低所得層Iにやや高い。

表I-6-4 学年と子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）											
			利用している	利用したことがある・利用する必要がなかった	満たしていきなかった	利用したかったが条件を	スが使えづらかった	利用時間や制度・サービス	あった	利用するのに抵抗感が	なかった	利用のしかたがわからなかった	まったく知らなかった	制度やサービスについて
全体		5,586 100.0%	242 4.3%	3,742 67.0%	20 0.4%	25 0.4%	82 1.5%	165 3.0%	311 5.6%	689 12.3%	310 5.5%			
学 年	小学2年生	1,887 100.0%	80 4.2%	1,249 66.2%	6 0.3%	7 0.4%	42 2.2%	72 3.8%	106 5.6%	219 11.6%	106 5.6%			
	小学5年生	1,970 100.0%	101 5.1%	1,360 69.0%	6 0.3%	11 0.6%	22 1.1%	48 2.4%	107 5.4%	244 12.4%	71 3.6%			
	中学2年生	1,729 100.0%	61 3.5%	1,133 65.5%	8 0.5%	7 0.4%	18 1.0%	45 2.6%	98 5.7%	226 13.1%	133 7.7%			

※小2、小5、中2の保護者が回答

表 I-6-5 世帯類型と子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）のクロス

	合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）									
		利用している	利用したことがある・利用したことがない	利用する必要がなかった	満たしていなかった	利用したかったが条件を	利用時間が制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があつた	利用のしかたがわからない	まったく知らなかった	制度やサービスについて
全 体	5,586 100.0%	242 4.3%	3,742 67.0%	20 0.4%	25 0.4%	82 1.5%	165 3.0%	311 5.6%	689 12.3%	310 5.5%	
世帯類型	ひとり親世帯	785 100.0%	39 5.0%	404 51.5%	7 0.9%	8 1.0%	23 2.9%	41 5.2%	78 9.9%	145 18.5%	40 5.1%
	ふたり親世帯	4,688 100.0%	200 4.3%	3,297 70.3%	13 0.3%	17 0.4%	57 1.2%	122 2.6%	232 4.9%	533 11.4%	217 4.6%
	その他世帯	58 100.0%	3 5.2%	36 62.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.4%	1 1.7%	10 17.2%	6 10.3%
	不 明	55 100.0%	0 0.0%	5 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	47 85.5%

※小2、小5、中2の保護者が回答

表 I-6-6 所得階層と子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）のクロス

	合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）									
		利用している	利用したことがある・利用したことがない	利用する必要がなかった	満たしていなかった	利用したかったが条件を	利用時間が制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があつた	利用のしかたがわからない	まったく知らなかった	制度やサービスについて
全 体	5,586 100.0%	242 4.3%	3,742 67.0%	20 0.4%	25 0.4%	82 1.5%	165 3.0%	311 5.6%	689 12.3%	310 5.5%	
所得階層	低所得層Ⅰ	899 100.0%	37 4.1%	485 53.9%	9 1.0%	6 0.7%	32 3.6%	43 4.8%	80 8.9%	165 18.4%	42 4.7%
	低所得層Ⅱ	994 100.0%	54 5.4%	622 62.6%	2 0.2%	6 0.6%	16 1.6%	38 3.8%	79 7.9%	135 13.6%	42 4.2%
	中間所得層Ⅰ	951 100.0%	38 4.0%	706 74.2%	1 0.1%	4 0.4%	6 0.6%	27 2.8%	45 4.7%	98 10.3%	26 2.7%
	中間所得層Ⅱ	1,450 100.0%	61 4.2%	1,069 73.7%	2 0.1%	4 0.3%	13 0.9%	31 2.1%	61 4.2%	149 10.3%	60 4.1%
	上位所得層	779 100.0%	38 4.9%	588 75.5%	3 0.4%	3 0.4%	4 0.5%	12 1.5%	24 3.1%	94 12.1%	13 1.7%
	不 明	513 100.0%	14 2.7%	272 53.0%	3 0.6%	2 0.4%	11 2.1%	14 2.7%	22 4.3%	48 9.4%	127 24.8%

※小2、小5、中2の保護者が回答

【無料の学習支援】

「利用したことがある・利用している」は6.9%で、全体の中では少数である（表I-6-7）。世帯類型別（表I-6-8）、所得階層別（表I-6-9）にみても、利用経験に大きな違いは見られない。「利用する必要がなかった」は56.2%で、全体の半数強を占める。「子ども食堂」と同様、世帯類型別にはひとり親世帯、所得階層別には低所得層が「利用する必要がなかった」と回答する比率が低く、ニーズの高い層ほど「利用する必要があるが利用していない」ものが多いことが推察される。「必要がなかった」以外の利用していない理由は、「子ども食堂」と同様に「制度やサービスがなかった（12.9%）」「制度やサービスについて知らなかった（11.9%）」「利用の仕方がわからなかった（4.0%）」といったサービス共有と情報提供の問題に関わることが多い。「抵抗感があった（0.8%）」は全体では少数であるが、ひとり親世帯、低所得層Ⅰにやや高い。

表I-6-7 学年と子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）のクロス

	合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）									
		利用している	利用する必要がなかった	満たしていなかった	利用したかったが条件を	利用時間が制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	まったく知らなかった	制度やサービスについて	た制度やサービスがなかった
全体	5,586 100.0%	383 6.9%	3,139 56.2%	42 0.8%	47 0.8%	45 0.8%	225 4.0%	662 11.9%	722 12.9%	321 5.7%	
学年	小学2年生	1,887 100.0%	109 5.8%	1,045 55.4%	16 0.8%	13 0.7%	22 1.2%	88 4.7%	238 12.6%	250 13.2%	106 5.6%
	小学5年生	1,970 100.0%	146 7.4%	1,159 58.8%	12 0.6%	23 1.2%	10 0.5%	72 3.7%	225 11.4%	242 12.3%	81 4.1%
	中学2年生	1,729 100.0%	128 7.4%	935 54.1%	14 0.8%	11 0.6%	13 0.8%	65 3.8%	199 11.5%	230 13.3%	134 7.8%

※小2、小5、中2の保護者が回答

表 I-6-8 世帯類型と子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）のクロス

	合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）									
		利用している	利用したことがある・利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間が制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからない	まったく知らなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった
全体	5,586 100.0%	383 6.9%	3,139 56.2%	42 0.8%	47 0.8%	45 0.8%	225 4.0%	662 11.9%	722 12.9%	321 5.7%	
世帯類型	ひとり親世帯	785 100.0%	60 7.6%	339 43.2%	12 1.5%	8 1.0%	16 2.0%	55 7.0%	133 16.9%	123 15.7%	39 5.0%
	ふたり親世帯	4,688 100.0%	317 6.8%	2,763 58.9%	30 0.6%	38 0.8%	27 0.6%	168 3.6%	524 11.2%	591 12.6%	230 4.9%
	その他世帯	58 100.0%	6 10.3%	32 55.2%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	2 3.4%	5 8.6%	7 12.1%	5 8.6%
	不明	55 100.0%	0 0.0%	5 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	47 85.5%

※小2、小5、中2の保護者が回答

表 I-6-9 所得階層と子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）のクロス

	合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）									
		利用している	利用したことがある・利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間が制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからない	まったく知らなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった
全体	5,586 100.0%	383 6.9%	3,139 56.2%	42 0.8%	47 0.8%	45 0.8%	225 4.0%	662 11.9%	722 12.9%	321 5.7%	
所得階層	低所得層Ⅰ	899 100.0%	67 7.5%	391 43.5%	16 1.8%	11 1.2%	14 1.6%	60 6.7%	146 16.2%	152 16.9%	42 4.7%
	低所得層Ⅱ	994 100.0%	79 7.9%	494 49.7%	8 0.8%	13 1.3%	11 1.1%	54 5.4%	159 16.0%	135 13.6%	41 4.1%
	中間所得層Ⅰ	951 100.0%	58 6.1%	569 59.8%	7 0.7%	7 0.7%	6 0.6%	40 4.2%	115 12.1%	118 12.4%	31 3.3%
	中間所得層Ⅱ	1,450 100.0%	102 7.0%	921 63.5%	6 0.4%	11 0.8%	5 0.3%	40 2.8%	135 9.3%	167 11.5%	63 4.3%
	上位所得層	779 100.0%	62 8.0%	531 68.2%	3 0.4%	3 0.4%	4 0.5%	18 2.3%	45 5.8%	101 13.0%	12 1.5%
	不明	513 100.0%	15 2.9%	233 45.4%	2 0.4%	2 0.4%	5 1.0%	13 2.5%	62 12.1%	49 9.6%	132 25.7%

※小2、小5、中2の保護者が回答

【生活保護】

「利用したことがある・利用している」は2.6%で、全体の中では少数である（表I-6-10）。生活保護基準以下の所得層を対象とした制度であることから、ひとり親世帯（10.9%）（表I-6-11）、低所得層I（9.8%）（表I-6-12）に利用層が集中している。「利用する必要がなかった」は85.9%である。不明の6.3%を除くと、全体の5.2%が「利用する必要があったが利用していない」ことになる（※）。ひとり親世帯では「利用する必要はなかった」は69.4%で、不明の5.9%を除くと、全体の13.8%が「利用する必要があったが利用していない」ことになる。この理由は「条件を満たしていなかった（4.9%）」「抵抗感があった（4.9%）」が多い。低所得層Iでは、「利用する必要はなかった」は67.6%で、不明の5.5%を除くと、全体の17.1%が「利用する必要があったが利用していない」ことになる。この理由はひとり親世帯と同様に「条件を満たしていなかった（7.4%）」「抵抗感があった（4.8%）」が多い。

※「利用したことがある・利用している、利用する必要がなかった、不明」の比率の合計を全体(100%)から引いて算出。以下同様。

表I-6-10 学年と手当等の制度利用（生活保護）のクロス

	合計	手当等の制度利用（生活保護）								
		利用している	利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	まったく知らなかった	制度やサービスについて
全体	6,852 100.0%	180 2.6%	5,885 85.9%	154 2.2%	27 0.4%	83 1.2%	39 0.6%	55 0.8%	429 6.3%	
学年	小学2年生	1,887 100.0%	33 1.7%	1,649 87.4%	43 2.3%	5 0.3%	21 1.1%	15 0.8%	10 0.5%	111 5.9%
	小学5年生	1,970 100.0%	55 2.8%	1,750 88.8%	39 2.0%	10 0.5%	18 0.9%	7 0.4%	14 0.7%	77 3.9%
	中学2年生	1,729 100.0%	50 2.9%	1,442 83.4%	45 2.6%	6 0.3%	23 1.3%	6 0.3%	16 0.9%	141 8.2%
	高校2年生	1,266 100.0%	42 3.3%	1,044 82.5%	27 2.1%	6 0.5%	21 1.7%	11 0.9%	15 1.2%	100 7.9%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 6 - 11 世帯類型と手当等の制度利用（生活保護）のクロス

	合計	手当等の制度利用（生活保護）								不明
		利用している	利用したことがある・利用していない	利用する必要がなかった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用しなかったが制度が使いづらかった	利用したかったが制度があつた	利用するのに抵抗感があつた	利用のしかたがわからなかった	
全体	6,852 100.0%	180 2.6%	5,885 85.9%	154 2.2%	27 0.4%	83 1.2%	39 0.6%	55 0.8%	429 6.3%	
世帯類型	ひとり親世帯	1,047 100.0%	114 10.9%	727 69.4%	51 4.9%	16 1.5%	51 4.9%	12 1.1%	14 1.3%	62 5.9%
	ふたり親世帯	5,661 100.0%	61 1.1%	5,100 90.1%	99 1.7%	10 0.2%	31 0.5%	25 0.4%	41 0.7%	294 5.2%
	その他世帯	71 100.0%	5 7.0%	48 67.6%	3 4.2%	1 1.4%	1 1.4%	2 2.8%	0 0.0%	11 15.5%
	不明	73 100.0%	0 0.0%	10 13.7%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	62 84.9%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 6 - 12 所得階層と手当等の制度利用（生活保護）のクロス

	合計	手当等の制度利用（生活保護）								不明
		利用している	利用したことがある・利用していない	利用する必要がなかった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用しなかったが制度が使いづらかった	利用したかったが制度があつた	利用するのに抵抗感があつた	利用のしかたがわからなかった	
全体	6,852 100.0%	180 2.6%	5,885 85.9%	154 2.2%	27 0.4%	83 1.2%	39 0.6%	55 0.8%	429 6.3%	
所得階層	低所得層Ⅰ	1,128 100.0%	111 9.8%	762 67.6%	83 7.4%	17 1.5%	54 4.8%	22 2.0%	17 1.5%	62 5.5%
	低所得層Ⅱ	1,206 100.0%	18 1.5%	1,059 87.8%	40 3.3%	4 0.3%	11 0.9%	7 0.6%	10 0.8%	57 4.7%
	中間所得層Ⅰ	1,137 100.0%	10 0.9%	1,055 92.8%	15 1.3%	2 0.2%	6 0.5%	2 0.2%	10 0.9%	37 3.3%
	中間所得層Ⅱ	1,743 100.0%	11 0.6%	1,639 94.0%	11 0.6%	1 0.1%	2 0.1%	4 0.2%	8 0.5%	67 3.8%
	上位所得層	987 100.0%	5 0.5%	955 96.8%	1 0.1%	0 0.0%	2 0.2%	2 0.2%	6 0.6%	16 1.6%
	不明	651 100.0%	25 3.8%	415 63.7%	4 0.6%	3 0.5%	8 1.2%	2 0.3%	4 0.6%	190 29.2%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

【就学援助】

「利用したことがある・利用している」は19.0%で、全体の中では少数であるものの、低所得世帯を対象とした制度の中では比較的多く利用されている（表I-6-13）。ひとり親世帯（55.0%）（表I-6-14）、低所得層Ⅰ（52.0%）、低所得層Ⅱ（29.0%）（表I-6-15）では特に利用者が多く、低所得世帯向けに広く浸透している。「利用する必要がなかった」は65.8%で、全体の2/3を占める。不明の6.3%を除くと、全体の8.9%が「利用する必要があったが利用していない」ことになる。ひとり親世帯では「利用する必要はなかった」は24.4%で、不明の5.9%を除くと、全体の14.7%が「利用する必要があったが利用していない」ことになる。この理由は「条件を満たしていなかった（5.8%）」「利用の仕方がわからなかった（2.9%）」「制度やサービスについて知らなかった（3.4%）」が多い。低所得層Ⅰでは、「利用する必要はなかった」は28.4%で、不明の5.1%を除くと、全体の14.5%が「利用する必要があったが利用していない」ことになる。この理由はひとり親世帯と同様に「条件を満たしていなかった（5.1%）」「利用の仕方がわからなかった（3.2%）」「制度やサービスについて知らなかった（4.2%）」が多い。

表I-6-13 学年と手当等の制度利用（就学援助）のクロス

	合計	手当等の制度利用（就学援助）								
		利用している	利用する必要がなかった	満たしていなかったが条件を	利用しなかったが制度が	使わなかった	利用するのに抵抗感が	あった	利用のしかたがわからなかった	まったく知らなかった
全体	6,852 100.0%	1,302 19.0%	4,511 65.8%	337 4.9%	25 0.4%	34 0.5%	80 1.2%	134 2.0%	429 6.3%	
学年	小学2年生	1,887 100.0%	300 15.9%	1,315 69.7%	94 5.0%	9 0.5%	8 0.4%	18 1.0%	35 1.9%	108 5.7%
	小学5年生	1,970 100.0%	343 17.4%	1,395 70.8%	83 4.2%	3 0.2%	8 0.4%	20 1.0%	41 2.1%	77 3.9%
	中学2年生	1,729 100.0%	372 21.5%	1,074 62.1%	82 4.7%	4 0.2%	10 0.6%	23 1.3%	32 1.9%	132 7.6%
	高校2年生	1,266 100.0%	287 22.7%	727 57.4%	78 6.2%	9 0.7%	8 0.6%	19 1.5%	26 2.1%	112 8.8%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 6 - 14 世帯類型と手当等の制度利用（就学援助）のクロス

	合計	手当等の制度利用（就学援助）								不明
		利用している	利用したことがある・利用していない	利用する必要がなかった	満たしなかったが条件を満たしていなかった	利用しなかったが制度が	使わなかった	利用しなかったが制度が	あった	
全体	6,852 100.0%	1,302 19.0%	4,511 65.8%	337 4.9%	25 0.4%	34 0.5%	80 1.2%	134 2.0%	429 6.3%	
世帯類型	ひとり親世帯	1,047 100.0%	576 55.0%	255 24.4%	61 5.8%	13 1.2%	14 1.3%	30 2.9%	36 3.4%	62 5.9%
	ふたり親世帯	5,661 100.0%	711 12.6%	4,211 74.4%	268 4.7%	12 0.2%	20 0.4%	49 0.9%	96 1.7%	294 5.2%
	その他世帯	71 100.0%	14 19.7%	37 52.1%	7 9.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.4%	11 15.5%
	不明	73 100.0%	1 1.4%	8 11.0%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	62 84.9%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I - 6 - 15 所得階層と手当等の制度利用（就学援助）のクロス

	合計	手当等の制度利用（就学援助）								不明
		利用している	利用したことがある・利用していない	利用する必要がなかった	満たしなかったが条件を満たしていなかった	利用しなかったが制度が	使わなかった	利用しなかったが制度が	あった	
全体	6,852 100.0%	1,302 19.0%	4,511 65.8%	337 4.9%	25 0.4%	34 0.5%	80 1.2%	134 2.0%	429 6.3%	
所得階層	低所得層Ⅰ	1,128 100.0%	586 52.0%	320 28.4%	58 5.1%	12 1.1%	12 1.1%	36 3.2%	47 4.2%	57 5.1%
	低所得層Ⅱ	1,206 100.0%	350 29.0%	643 53.3%	104 8.6%	7 0.6%	10 0.8%	17 1.4%	23 1.9%	52 4.3%
	中間所得層Ⅰ	1,137 100.0%	148 13.0%	835 73.4%	76 6.7%	3 0.3%	4 0.4%	10 0.9%	19 1.7%	42 3.7%
	中間所得層Ⅱ	1,743 100.0%	107 6.1%	1,475 84.6%	56 3.2%	2 0.1%	0 0.0%	7 0.4%	28 1.6%	68 3.9%
	上位所得層	987 100.0%	27 2.7%	902 91.4%	25 2.5%	0 0.0%	2 0.2%	3 0.3%	9 0.9%	19 1.9%
	不明	651 100.0%	84 12.9%	336 51.6%	18 2.8%	1 0.2%	6 0.9%	7 1.1%	8 1.2%	191 29.3%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

7 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響について

新型コロナウイルス感染拡大の母親の仕事への影響については、学年別では目立った差は無く、「失業した・仕事をやめた」が全体で2.9%、「一時的に仕事を休んだ・休業した」が12.7%であった（表I-7-1）。世帯類型別でみると、「ひとり親世帯」でより厳しい影響があり、「失業した・仕事をやめた」が5.5%、「一時的に仕事を休んだ・休業した」が17.0%であり、「ふたり親世帯ではそれぞれ2.5%と12.0%であった（表I-7-2）。所得階層別では、低所得層Iで「失業した・仕事をやめた」の割合が最も高く6.4%、対して上位所得層では0.3%であった（表I-7-3）。同様に「一時的に仕事を休んだ・休業した」は19.4%と7.3%であった。

父親の仕事への影響では、失業や休業のパーセンテージは母親よりも低いものの、世帯類型や所得階層において同様の傾向がみられた。「失業した・仕事をやめた」は全体で1.2%、「一時的に仕事を休んだ・休業した」は5.9%であった（表I-7-4）。世帯類型別では、「ひとり親世帯」での「失業した・仕事をやめた」が2.5%、「一時的に仕事を休んだ・休業した」が10.2%であり、「ふたり親世帯」ではそれぞれ1.1%と5.8%であった（表I-7-5）。所得類型別では、低所得層Iでは「失業した・仕事をやめた」が4.3%、「一時的に仕事を休んだ・休業した」が12.0%であり、「上位所得層」ではそれぞれ0.3%と4.5%であった（表I-7-6）。

表I-7-1 学年と生活や心身への影響があったか（A母親の仕事への影響）のクロス

		合 計	生活や心身への影響があったか A母親の仕事への影響（※複数回答）						不明
			た 失 業 し た ・ 仕 事 を や め た	だ 一 時 的 に 仕 事 を 休 ん だ ・ 休 業 し た	仕 事 時 間 が 減 っ た	仕 事 時 間 が 増 え た	給 料 の 不 払 い が あ っ た	あ て は ま る も の は な い	
全 体		6,658 -	193 2.9%	845 12.7%	647 9.7%	373 5.6%	25 0.4%	4,540 68.2%	235 3.5%
学 年	小学2年生	1,859 -	60 3.2%	297 16.0%	155 8.3%	105 5.6%	12 0.6%	1,239 66.6%	58 3.1%
	小学5年生	1,930 -	57 3.0%	276 14.3%	189 9.8%	115 6.0%	6 0.3%	1,269 65.8%	74 3.8%
	中学2年生	1,662 -	39 2.3%	146 8.8%	166 10.0%	95 5.7%	3 0.2%	1,184 71.2%	65 3.9%
	高校2年生	1,207 -	37 3.1%	126 10.4%	137 11.4%	58 4.8%	4 0.3%	848 70.3%	38 3.1%

※小2、小5、中2、高2の保護者（父子世帯を除く）が回答

表 I-7-2 世帯類型と生活や心身への影響があったか（A 母親の仕事への影響）のクロス

		合 計	生活や心身への影響があったか A 母親の仕事への影響（※複数回答）						不 明
			た 失 業 し た ・ 仕 事 を や め	だ 一 時 的 に 仕 事 を 休 ん だ ・ 休 業 し た	仕 事 時 間 が 減 っ た	仕 事 時 間 が 増 え た	給 料 の 不 払 い が あ っ た	あ て は ま る も の は な い	
全 体		6,658 -	193 2.9%	845 12.7%	647 9.7%	373 5.6%	25 0.4%	4,540 68.2%	235 3.5%
世 帯 類 型	ひとり親世帯	929 -	51 5.5%	158 17.0%	129 13.9%	58 6.2%	6 0.6%	518 55.8%	53 5.7%
	ふたり親世帯	5,661 -	140 2.5%	678 12.0%	509 9.0%	310 5.5%	19 0.3%	3,984 70.4%	174 3.1%
	その他世帯	52 -	1 1.9%	8 15.4%	8 15.4%	5 9.6%	0 0.0%	31 59.6%	2 3.8%
	不 明	16 -	1 6.3%	1 6.3%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	7 43.8%	6 37.5%

※小2、小5、中2、高2の保護者（父子世帯を除く）が回答

表 I-7-3 所得階層と生活や心身への影響があったか（A 母親の仕事への影響）のクロス

		合 計	生活や心身への影響があったか A 母親の仕事への影響（※複数回答）						不 明
			た 失 業 し た ・ 仕 事 を や め	だ 一 時 的 に 仕 事 を 休 ん だ ・ 休 業 し た	仕 事 時 間 が 減 っ た	仕 事 時 間 が 増 え た	給 料 の 不 払 い が あ っ た	あ て は ま る も の は な い	
全 体		6,658 -	193 2.9%	845 12.7%	647 9.7%	373 5.6%	25 0.4%	4,540 68.2%	235 3.5%
所 得 階 層	低所得層 I	1,099 -	70 6.4%	213 19.4%	181 16.5%	42 3.8%	12 1.1%	619 56.3%	36 3.3%
	低所得層 II	1,172 -	50 4.3%	162 13.8%	140 11.9%	62 5.3%	4 0.3%	751 64.1%	40 3.4%
	中間所得層 I	1,117 -	27 2.4%	157 14.1%	118 10.6%	43 3.8%	6 0.5%	779 69.7%	18 1.6%
	中間所得層 II	1,713 -	32 1.9%	177 10.3%	115 6.7%	110 6.4%	1 0.1%	1,270 74.1%	39 2.3%
	上位所得層	973 -	3 0.3%	71 7.3%	46 4.7%	97 10.0%	0 0.0%	752 77.3%	18 1.8%
	不 明	584 -	11 1.9%	65 11.1%	47 8.0%	19 3.3%	2 0.3%	369 63.2%	84 14.4%

※小2、小5、中2、高2の保護者（父子世帯を除く）が回答

表 I-7-4 学年と生活や心身への影響があったか（B父親の仕事への影響）のクロス

	合計	生活や心身への影響があったか B父親の仕事への影響（※複数回答）							
		た 失業した・仕事をやめた	だ 一時的に仕事を休んだ・休業した	仕事時間が減った	仕事時間が増えた	給料の不払いがあった	あてはまるものはない	不明	
全 体	5,818 -	68 1.2%	343 5.9%	533 9.2%	250 4.3%	30 0.5%	4,489 77.2%	216 3.7%	
学 年	小学 2 年生	1,673 -	25 1.5%	114 6.8%	148 8.8%	83 5.0%	12 0.7%	1,282 76.6%	51 3.0%
	小学 5 年生	1,700 -	13 0.8%	108 6.4%	164 9.6%	68 4.0%	6 0.4%	1,305 76.8%	64 3.8%
	中学 2 年生	1,430 -	16 1.1%	72 5.0%	127 8.9%	60 4.2%	7 0.5%	1,109 77.6%	61 4.3%
	高校 2 年生	1,015 -	14 1.4%	49 4.8%	94 9.3%	39 3.8%	5 0.5%	793 78.1%	40 3.9%

※小2、小5、中2、高2の保護者（母子世帯を除く）が回答

表 I-7-5 世帯類型と生活や心身への影響があったか（B父親の仕事への影響）のクロス

	合計	生活や心身への影響があったか B父親の仕事への影響（※複数回答）							
		た 失業した・仕事をやめた	だ 一時的に仕事を休んだ・休業した	仕事時間が減った	仕事時間が増えた	給料の不払いがあった	あてはまるものはない	不明	
全 体	5,818 -	68 1.2%	343 5.9%	533 9.2%	250 4.3%	30 0.5%	4,489 77.2%	216 3.7%	
世帯類型	ひとり親世帯	118 -	3 2.5%	12 10.2%	21 17.8%	9 7.6%	1 0.8%	68 57.6%	10 8.5%
	ふたり親世帯	5,661 -	65 1.1%	329 5.8%	503 8.9%	239 4.2%	29 0.5%	4,402 77.8%	199 3.5%
	その他世帯	30 -	0 0.0%	2 6.7%	9 30.0%	2 6.7%	0 0.0%	15 50.0%	2 6.7%
	不 明	9 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 44.4%	5 55.6%

※小2、小5、中2、高2の保護者（母子世帯を除く）が回答

表 I-7-6 所得階層と生活や心身への影響があったか（B父親の仕事への影響）のクロス

	合計	生活や心身への影響があったか B父親の仕事への影響（※複数回答）							
		失業した・仕事をやめた	一時的に仕事を休んだ・休業した	仕事時間が減った	仕事時間が増えた	給料の不払いがあった	あてはまるものはない	不明	
全体	5,818 -	68 1.2%	343 5.9%	533 9.2%	250 4.3%	30 0.5%	4,489 77.2%	216 3.7%	
所得階層	低所得層Ⅰ	583 -	25 4.3%	70 12.0%	107 18.4%	18 3.1%	13 2.2%	360 61.7%	24 4.1%
	低所得層Ⅱ	1,033 -	19 1.8%	73 7.1%	130 12.6%	43 4.2%	6 0.6%	750 72.6%	38 3.7%
	中間所得層Ⅰ	1,045 -	12 1.1%	60 5.7%	104 10.0%	31 3.0%	4 0.4%	826 79.0%	23 2.2%
	中間所得層Ⅱ	1,683 -	3 0.2%	67 4.0%	114 6.8%	71 4.2%	4 0.2%	1,403 83.4%	38 2.3%
	上位所得層	971 -	3 0.3%	44 4.5%	46 4.7%	66 6.8%	0 0.0%	800 82.4%	17 1.8%
	不明	503 -	6 1.2%	29 5.8%	32 6.4%	21 4.2%	3 0.6%	350 69.6%	76 15.1%

※小2、小5、中2、高2の保護者（母子世帯を除く）が回答

回答者自身への影響については、全体として「体調をくずした・くずしやすくなった」7.3%、「気持ちが沈みがちになった」17.6%、「病院にかかりにくくなった」12.2%、「子育てや子どもに使う時間が増えた」15.0%、「子どもに注意したり怒ったりすることが増えた」14.1%、「友人や知人に相談ごとをする機会が減った」10.4%と、体調やストレス、生活の変化、社会的ネットワークの制限に一定の影響があったことがうかがわれる（表 I-7-7）。こうした影響に、学年差が見られたものとして、子育てに使う時間と子どもへの注意などについては、学年が低いほど高い傾向がある。

世帯類型別にみると、「体調をくずした・くずしやすくなった」と「気持ちが沈みがちになった」において、「ふたり親世帯」よりも「ひとり親世帯」で高い傾向がある（表 I-7-8）。所得階層別では、「体調をくずした・くずしやすくなった」と「気持ちが沈みがちになった」に加えて、「子どもに注意したり怒ったりすることが増えた」において、所得がより低い階層においてパーセンテージが高い傾向がある（表 I-7-9）。

表 I-7-7 学年と生活や心身への影響があったか（C回答者自身への影響）のクロス

	合計	生活や心身への影響があったか C回答者自身への影響（※複数回答）								
		体調をくずした・くずしやすくなった	気持ちが沈みがちになった	病院にかかりにくくなった	子育てや子どもに使う時間が増えた	子どもに注意したり怒ったりすることが増えた	友人や知人に相談ごとをする機会が減った	あてはまるものはない	不明	
全体	6,852 -	502 7.3%	1,208 17.6%	836 12.2%	1,025 15.0%	964 14.1%	714 10.4%	3,424 50.0%	244 3.6%	
学年	小学2年生	1,887 -	129 6.8%	322 17.1%	253 13.4%	363 19.2%	398 21.1%	237 12.6%	859 45.5%	49 2.6%
	小学5年生	1,970 -	146 7.4%	359 18.2%	252 12.8%	349 17.7%	339 17.2%	227 11.5%	918 46.6%	63 3.2%
	中学2年生	1,729 -	126 7.3%	292 16.9%	196 11.3%	216 12.5%	179 10.4%	156 9.0%	915 52.9%	76 4.4%
	高校2年生	1,266 -	101 8.0%	235 18.6%	135 10.7%	97 7.7%	48 3.8%	94 7.4%	732 57.8%	56 4.4%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-7-8 世帯類型と生活や心身への影響があったか（C回答者自身への影響）のクロス

	合計	生活や心身への影響があったか C回答者自身への影響（※複数回答）								
		体調をくずした・くずしやすくなった	気持ちが沈みがちになった	病院にかかりにくくなった	子育てや子どもに使う時間が増えた	子どもに注意したり怒ったりすることが増えた	友人や知人に相談ごとをする機会が減った	あてはまるものはない	不明	
全体	6,852 -	502 7.3%	1,208 17.6%	836 12.2%	1,025 15.0%	964 14.1%	714 10.4%	3,424 50.0%	244 3.6%	
世帯類型	ひとり親世帯	1,047 -	129 12.3%	252 24.1%	141 13.5%	137 13.1%	184 17.6%	91 8.7%	469 44.8%	34 3.2%
	ふたり親世帯	5,661 -	365 6.4%	940 16.6%	684 12.1%	877 15.5%	769 13.6%	617 10.9%	2,915 51.5%	144 2.5%
	その他世帯	71 -	6 8.5%	13 18.3%	10 14.1%	9 12.7%	10 14.1%	5 7.0%	33 46.5%	5 7.0%
	不明	73 -	2 2.7%	3 4.1%	1 1.4%	2 2.7%	1 1.4%	1 1.4%	7 9.6%	61 83.6%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-7-9 所得階層と生活や心身への影響があったか（C回答者自身への影響）のクロス

	合計	生活や心身への影響があったか C回答者自身への影響（※複数回答）								
		体調をくずした・くずしやすくなった	気持ちが沈みがちになった	病院にかかりにくくなった	子育てや子どもに使う時間が増えた	子どもに注意したり怒ったりすることが増えた	友人や知人に相談ごとをする機会が減った	あてはまるものはない	不明	
全体	6,852 -	502 7.3%	1,208 17.6%	836 12.2%	1,025 15.0%	964 14.1%	714 10.4%	3,424 50.0%	244 3.6%	
所得階層	低所得層Ⅰ	1,128 -	161 14.3%	284 25.2%	163 14.5%	185 16.4%	213 18.9%	103 9.1%	472 41.8%	19 1.7%
	低所得層Ⅱ	1,206 -	95 7.9%	244 20.2%	173 14.3%	213 17.7%	212 17.6%	121 10.0%	551 45.7%	28 2.3%
	中間所得層Ⅰ	1,137 -	82 7.2%	193 17.0%	156 13.7%	178 15.7%	157 13.8%	126 11.1%	589 51.8%	12 1.1%
	中間所得層Ⅱ	1,743 -	77 4.4%	265 15.2%	174 10.0%	251 14.4%	215 12.3%	198 11.4%	955 54.8%	31 1.8%
	上位所得層	987 -	51 5.2%	139 14.1%	84 8.5%	120 12.2%	100 10.1%	100 10.1%	599 60.7%	12 1.2%
	不明	651 -	36 5.5%	83 12.7%	86 13.2%	78 12.0%	67 10.3%	66 10.1%	258 39.6%	142 21.8%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

子どもへの影響については、「学習に支障がでた」「生活リズムがくずれた」は学年があがるほど増える傾向にある一方、「習い事などに支障がでた」では小5が最も高く30.8%、「遊びや友だちづきあいに支障がでた」では小2が最も高く23.6%であった（表 I-7-10）。世帯類型別でみると、ひとり親世帯において「学習に支障がでた」「生活リズムがくずれた」が、ふたり親世帯において「習いごとなどに支障がでた」が、それぞれ他の類型よりも高い傾向がある（表 I-7-11）。所得階層別では、「学習に支障がでた」と「生活リズムがくずれた」は所得が低い方が多い傾向にあり、「習い事などに支障がでた」は所得が高い方が多い傾向にある（表 I-7-12）。

表I-7-10 学年と生活や心身への影響があったか（D子どもへの影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか D子どもへの影響（全学年）（※複数回答）							
			学習に支障が でた	習い事などに支障が でた	障 が で た	遊 び や 友 だ ち づ き あ い に 支 障 が で た	生 活 リ ズ ム が く ず れ た	や す く な っ た	体 力 が 落 ち た り 、 ケ ガ を し やす く な っ た	ふ さ ぎ 込 む こ と が 増 え た
全 体		6,852 -	1,097 16.0%	1,522 22.2%	1,372 20.0%	1,754 25.6%	594 8.7%	349 5.1%	2,779 40.6%	232 3.4%
学 年	小学2年生	1,887 -	235 12.5%	472 25.0%	446 23.6%	344 18.2%	143 7.6%	80 4.2%	789 41.8%	60 3.2%
	小学5年生	1,970 -	305 15.5%	606 30.8%	411 20.9%	520 26.4%	205 10.4%	90 4.6%	725 36.8%	53 2.7%
	中学2年生	1,729 -	358 20.7%	328 19.0%	306 17.7%	560 32.4%	173 10.0%	110 6.4%	656 37.9%	65 3.8%
	高校2年生	1,266 -	199 15.7%	116 9.2%	209 16.5%	330 26.1%	73 5.8%	69 5.5%	609 48.1%	54 4.3%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表I-7-11 世帯類型と生活や心身への影響があったか（D子どもへの影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか D子どもへの影響（全学年）（※複数回答）							
			学習に支障が でた	習い事などに支障が でた	障 が で た	遊 び や 友 だ ち づ き あ い に 支 障 が で た	生 活 リ ズ ム が く ず れ た	や す く な っ た	体 力 が 落 ち た り 、 ケ ガ を し やす く な っ た	ふ さ ぎ 込 む こ と が 増 え た
全 体		6,852 -	1,097 16.0%	1,522 22.2%	1,372 20.0%	1,754 25.6%	594 8.7%	349 5.1%	2,779 40.6%	232 3.4%
世 帯 類 型	ひとり親世帯	1,047 -	222 21.2%	184 17.6%	193 18.4%	333 31.8%	103 9.8%	87 8.3%	388 37.1%	41 3.9%
	ふたり親世帯	5,661 -	863 15.2%	1,322 23.4%	1,164 20.6%	1,401 24.7%	486 8.6%	256 4.5%	2,354 41.6%	125 2.2%
	その他世帯	71 -	10 14.1%	13 18.3%	12 16.9%	15 21.1%	4 5.6%	3 4.2%	32 45.1%	7 9.9%
	不 明	73 -	2 2.7%	3 4.1%	3 4.1%	5 6.8%	1 1.4%	3 4.1%	5 6.8%	59 80.8%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-7-12 所得階層と生活や心身への影響があったか（D子どもへの影響）のクロス

	合計	生活や心身への影響があったか D子どもへの影響（全学年）（※複数回答）								
		学習に支障がでた	習い事などに支障がでた	遊びや友達とつきあいに支障がでた	生活リズムがくずれた	体力が落ちたり、ケガをしやすくなった	ふさぎ込むことが増えた	精神的に不安定になったり、	あてはまるものはない	不明
全体	6,852 -	1,097 16.0%	1,522 22.2%	1,372 20.0%	1,754 25.6%	594 8.7%	349 5.1%	2,779 40.6%	232 3.4%	
所得階層	低所得層Ⅰ	1,128 -	233 20.7%	176 15.6%	210 18.6%	360 31.9%	106 9.4%	89 7.9%	430 38.1%	30 2.7%
	低所得層Ⅱ	1,206 -	226 18.7%	243 20.1%	228 18.9%	342 28.4%	108 9.0%	74 6.1%	490 40.6%	30 2.5%
	中間所得層Ⅰ	1,137 -	198 17.4%	268 23.6%	249 21.9%	275 24.2%	101 8.9%	65 5.7%	470 41.3%	9 0.8%
	中間所得層Ⅱ	1,743 -	242 13.9%	472 27.1%	359 20.6%	416 23.9%	154 8.8%	66 3.8%	728 41.8%	19 1.1%
	上位所得層	987 -	119 12.1%	240 24.3%	208 21.1%	245 24.8%	81 8.2%	35 3.5%	428 43.4%	7 0.7%
	不明	651 -	79 12.1%	123 18.9%	118 18.1%	116 17.8%	44 6.8%	20 3.1%	233 35.8%	137 21.0%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

家庭の家計への影響については、全体として「世帯収入が減った」のは19.9%であり、学年による差は見られなかった(表 I-7-13)。世帯類型別では、ふたり親世帯よりもひとり親世帯において「世帯収入が減った」「世帯の支出が増えた」「世帯の貯蓄が減った」がいずれも高い傾向にある(表 I-7-14)。所得階層別でも、上の3つの項目のいずれもが、所得が低い方でより高い傾向にある(表 I-7-15)。

表 I-7-13 学年と生活や心身への影響があったか（E家庭の家計への影響）のクロス

		合 計	生活や心身への影響があったか E家庭の家計への影響（※複数回答）				
			世帯 収入が 減った	世帯 の支出 が増えた	世帯 の貯蓄 が減った	あて はまる もの はない	不 明
全 体		6,852 -	1,363 19.9%	1,342 19.6%	966 14.1%	3,644 53.2%	275 4.0%
学 年	小 学 2 年 生	1,887 -	368 19.5%	362 19.2%	248 13.1%	1,031 54.6%	71 3.8%
	小 学 5 年 生	1,970 -	386 19.6%	391 19.8%	277 14.1%	1,062 53.9%	71 3.6%
	中 学 2 年 生	1,729 -	335 19.4%	351 20.3%	258 14.9%	902 52.2%	81 4.7%
	高 校 2 年 生	1,266 -	274 21.6%	238 18.8%	183 14.5%	649 51.3%	52 4.1%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-7-14 世帯類型と生活や心身への影響があったか（E家庭の家計への影響）のクロス

		合 計	生活や心身への影響があったか E家庭の家計への影響（※複数回答）				
			世帯 収入が 減った	世帯 の支出 が増えた	世帯 の貯蓄 が減った	あて はまる もの はない	不 明
全 体		6,852 -	1,363 19.9%	1,342 19.6%	966 14.1%	3,644 53.2%	275 4.0%
世 帯 類 型	ひ と り 親 世 帯	1,047 -	261 24.9%	246 23.5%	178 17.0%	450 43.0%	44 4.2%
	ふ た り 親 世 帯	5,661 -	1,083 19.1%	1,086 19.2%	778 13.7%	3,151 55.7%	161 2.8%
	そ の 他 世 帯	71 -	16 22.5%	8 11.3%	9 12.7%	38 53.5%	7 9.9%
	不 明	73 -	3 4.1%	2 2.7%	1 1.4%	5 6.8%	63 86.3%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 I-7-15 所得階層と生活や心身への影響があったか（E家庭の家計への影響）のクロス

		合 計	生活や心身への影響があったか E家庭の家計への影響（※複数回答）				不 明
			世帯 収入が 減った	世帯 の支出 が増えた	世帯 の貯蓄 が減った	あて はまる もの はない	
全 体		6,852 -	1,363 19.9%	1,342 19.6%	966 14.1%	3,644 53.2%	275 4.0%
所 得 階 層	低 所 得 層 I	1,128 -	416 36.9%	291 25.8%	226 20.0%	375 33.2%	24 2.1%
	低 所 得 層 II	1,206 -	298 24.7%	294 24.4%	230 19.1%	539 44.7%	28 2.3%
	中 間 所 得 層 I	1,137 -	228 20.1%	236 20.8%	201 17.7%	600 52.8%	12 1.1%
	中 間 所 得 層 II	1,743 -	217 12.4%	319 18.3%	206 11.8%	1,108 63.6%	26 1.5%
	上 位 所 得 層	987 -	105 10.6%	119 12.1%	58 5.9%	736 74.6%	10 1.0%
	不 明	651 -	99 15.2%	83 12.7%	45 6.9%	286 43.9%	175 26.9%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

第Ⅱ部 子ども回答結果より

1 自分の家の暮らし向き

自分の家の経済状況に対する認知（自分の家の暮らし向き認知）については、学年が上がるにつれて、「大変苦しい」「やや苦しい」と答える者の割合が増える傾向にある。（表Ⅱ－１－１）

加えて、世帯類型と所得階層が、自分の家の暮らし向きの認知とどのような関係にあるかを検討した。まず世帯類型との関係について見ると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯の子どものほうが、自分の家の暮らし向きを「苦しい」「やや苦しい」と認知している者が多い。一方、「ややゆとりがある」「大変ゆとりがある」に関しては、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯の子どものほうが、そのように認知している者の割合がやや少ない。（表Ⅱ－１－２）

所得階層との関係を見ると、「大変苦しい」「やや苦しい」に関しては、所得階層が低くなるほど、該当する者の割合が高くなり、「ややゆとりがある」「大変ゆとりがある」に関しては、所得階層が高くなるほど、該当する者の割合が高くなるという関係が見られる。（表Ⅱ－１－３）

表Ⅱ－１－１ 学年と自分の家の暮らし向きのクロス

		合 計	自分の家の暮らし向き						不明
			大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	わからない	
全 体		4,972 100.0%	116 2.3%	470 9.5%	2,447 49.2%	722 14.5%	276 5.6%	851 17.1%	90 1.8%
学 年	小学 5 年生	1,970 100.0%	38 1.9%	101 5.1%	953 48.4%	265 13.5%	140 7.1%	436 22.1%	37 1.9%
	中学 2 年生	1,726 100.0%	34 2.0%	153 8.9%	859 49.8%	264 15.3%	97 5.6%	294 17.0%	25 1.4%
	高校 2 年生	1,276 100.0%	44 3.4%	216 16.9%	635 49.8%	193 15.1%	39 3.1%	121 9.5%	28 2.2%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表Ⅱ－１－２ 世帯類型と自分の家の暮らし向きとのクロス

	合 計	自分の家の暮らし向き							
		大変 苦しい	やや 苦しい	ふつ う	やや ゆとり がある	大変 ゆとり がある	わ か ら な い	不 明	
全 体	4,972 100.0%	116 2.3%	470 9.5%	2,447 49.2%	722 14.5%	276 5.6%	851 17.1%	90 1.8%	
世帯 類 型	ひとり親世帯	819 100.0%	37 4.5%	159 19.4%	378 46.2%	67 8.2%	23 2.8%	136 16.6%	19 2.3%
	ふたり親世帯	3,934 100.1%	69 1.8%	286 7.3%	1,971 50.1%	637 16.2%	240 6.1%	677 17.2%	54 1.4%
	その他世帯	165 100.0%	8 4.8%	21 12.7%	65 39.4%	13 7.9%	12 7.3%	30 18.2%	16 9.7%
	不 明	165 100.0%	8 4.8%	21 12.7%	65 39.4%	13 7.9%	12 7.3%	30 18.2%	16 9.7%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表Ⅱ－１－３ 所得階層と自分の家の暮らし向きとのクロス

	合 計	自分の家の暮らし向き							
		大変 苦しい	やや 苦しい	ふつ う	やや ゆとり がある	大変 ゆとり がある	わ か ら な い	不 明	
全 体	4,972 100.0%	116 2.3%	470 9.5%	2,447 49.2%	722 14.5%	276 5.6%	851 17.1%	90 1.8%	
所 得 階 層	低所得層Ⅰ	790 99.9%	57 7.2%	148 18.7%	359 45.4%	54 6.8%	17 2.2%	140 17.7%	15 1.9%
	低所得層Ⅱ	842 100.0%	21 2.5%	107 12.7%	463 55.0%	76 9.0%	28 3.3%	138 16.4%	9 1.1%
	中間所得層Ⅰ	782 100.1%	6 0.8%	70 9.0%	440 56.3%	96 12.3%	39 5.0%	120 15.3%	11 1.4%
	中間所得層Ⅱ	1,250 99.9%	14 1.1%	73 5.8%	650 52.0%	215 17.2%	63 5.0%	217 17.4%	18 1.4%
	上位所得層	736 100.1%	3 0.4%	15 2.0%	289 39.3%	217 29.5%	97 13.2%	105 14.3%	10 1.4%
	不 明	572 100.0%	15 2.6%	57 10.0%	246 43.0%	64 11.2%	32 5.6%	131 22.9%	27 4.7%

※小5、中2、高2の子どもが回答

2 居場所・相談相手・食事等について

放課後、一人で過ごす子どもたちの割合は、学年が上がるにつれ増え、高校生では「ときどきある」「よくある」をあわせて約半数が一人で過ごした経験がある。(表Ⅱ-2-1)

世帯類型別にみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯の子どものほうが、放課後、一人であることが「よくある」と回答した者が10%ほど多く、逆に「まったくない」「あまりない」と回答した者が、わずかであるが少ない。つまり、ひとり親世帯の子どもは、わずかではあるが放課後、一人で過ごすことが多いといえる。(表Ⅱ-2-2)

所得階層別にみると、放課後、一人で過ごすかどうかに関して、所得階層による違いはほとんどみられない。(表Ⅱ-2-3)

上記の結果を考え合わせるなら、放課後、一人で過ごすか否かに関しては、所得よりも、世帯類型の影響が大きいと考えられる。

表Ⅱ-2-1 学年と平日の放課後一緒に過ごす相手（一人である）のクロス

		合 計	平日の放課後一緒に過ごす相手（一人である）				
			まったくない	あまりない	ときどきある	よくある	不 明
全 体		4,972 100%	1,440 29.0%	1,257 25.3%	1,093 22.0%	822 16.5%	360 7.2%
学 年	小学5年生	1,970 100%	723 36.7%	475 24.1%	382 19.4%	253 12.8%	137 7.0%
	中学2年生	1,726 100%	470 27.2%	460 26.7%	379 22.0%	299 17.3%	118 6.8%
	高校2年生	1,276 100%	247 19.4%	322 25.2%	332 26.0%	270 21.2%	105 8.2%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表Ⅱ-2-2 世帯類型と平日の放課後一緒に過ごす相手（一人である）のクロス

		合 計	平日の放課後一緒に過ごす相手（一人である）				
			まったくない	あまりない	ときどきある	よくある	不 明
全 体		4,918 100%	1,420 28.9%	1,248 25.4%	1,080 22.0%	813 16.5%	357 7.3%
世 帯 類 型	ひとり親世帯	819 100%	209 25.5%	153 18.7%	181 22.1%	209 25.5%	67 8.2%
	ふたり親世帯	3,934 100%	1,164 29.6%	1,059 26.9%	867 22.0%	577 14.7%	267 6.8%
	その他世帯	54 100%	20 37.0%	9 16.7%	13 24.1%	9 16.7%	3 5.6%
	不 明	165 100%	47 28.5%	36 21.8%	32 19.4%	27 16.4%	23 13.9%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表Ⅱ-2-3 所得階層と平日の放課後一緒に過ごす相手（一人でいる）のクロス

		合 計	平日の放課後一緒に過ごす相手（一人でいる）				
			まったくない	あまりない	ときどきある	よくある	不 明
全 体		4,972 100%	1,440 29.0%	1,257 25.3%	1,093 22.0%	822 16.5%	360 7.2%
所得階層	低所得層Ⅰ	790 100%	217 27.5%	169 21.4%	187 23.7%	156 19.7%	61 7.7%
	低所得層Ⅱ	842 100%	264 31.4%	203 24.1%	185 22.0%	125 14.8%	65 7.7%
	中間所得層Ⅰ	782 100%	236 30.2%	206 26.3%	177 22.6%	121 15.5%	42 5.4%
	中間所得層Ⅱ	1,250 100%	372 29.8%	345 27.6%	261 20.9%	187 15.0%	85 6.8%
	上位所得層	736 100%	174 23.6%	197 26.8%	176 23.9%	138 18.8%	51 6.9%
	不 明	572 100%	177 30.9%	137 24.0%	107 18.7%	95 16.6%	56 9.8%

※小5、中2、高2の子どもが回答

ほっとできる場所に関しては、学年・世帯類型でみると、いずれの学年も、またひとり親世帯・ふたり親世帯いずれも、「自分の家」と回答する者が8割を超えており、家が重要な居場所であると考えられる。（表Ⅱ-2-4・表Ⅱ-2-5）

所得階層別では、低所得層Ⅰが唯一、「自分の家」を選ぶ者が8割を切っており、他の階層に比べ、若干低い。（表Ⅱ-2-6）

表Ⅱ-2-4 学年とほっとできる場所のクロス

		合 計	ほっとできる居場所											
			自分の家	同じ学校の友だちの家	同じ学校ではない友だちの家	塾や習い事	学校（部活など）	スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）	公園	図書館や公共の施設	ショッピングセンター	児童会館	ない	不明
全 体		4,972 100%	4,197 84.4%	64 1.3%	14 0.3%	23 0.5%	145 2.9%	26 0.5%	51 1.0%	33 0.7%	8 0.2%	12 0.2%	229 4.6%	170 3.4%
学 年	小学5年生	1,970 100%	1,684 85.5%	26 1.3%	7 0.4%	15 0.8%	34 1.7%	17 0.9%	33 1.7%	8 0.4%	0 0.0%	10 0.5%	57 2.9%	79 4.0%
	中学2年生	1,726 100%	1,442 83.5%	19 1.1%	4 0.2%	5 0.3%	63 3.7%	5 0.3%	12 0.7%	16 0.9%	3 0.2%	1 0.1%	98 5.7%	58 3.4%
	高校2年生	1,276 100%	1,071 83.9%	19 1.5%	3 0.2%	3 0.2%	48 3.8%	4 0.3%	6 0.5%	9 0.7%	5 0.4%	1 0.1%	74 5.8%	33 2.6%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表Ⅱ-2-5 世帯類型とほっとできる場所のクロス

	合計	ほっとできる居場所												
		自分の家	同じ学校の友だちの家	同じ学校ではない友だちの家	塾や習い事	学校(部活など)	スポーツクラブの活動の場 (野球場、サッカー場など)	公園	図書館や公共の施設	ショッピングセンター	児童会館	ない	不明	
全体	4,972 100%	4,197 84.4%	64 1.3%	14 0.3%	23 0.5%	145 2.9%	26 0.5%	51 1.0%	33 0.7%	8 0.2%	12 0.2%	229 4.6%	170 3.4%	
世帯類型	ひとり親世帯	819 100%	667 81.4%	7 0.9%	4 0.5%	3 0.4%	28 3.4%	5 0.6%	11 1.3%	9 1.1%	3 0.4%	4 0.5%	46 5.6%	32 3.9%
	ふたり親世帯	3,934 100%	3,373 85.7%	55 1.4%	8 0.2%	19 0.5%	110 2.8%	20 0.5%	37 0.9%	23 0.6%	5 0.1%	8 0.2%	164 4.2%	112 2.8%
	その他世帯	54 100%	43 79.6%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.7%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.6%	4 7.4%
	不明	165 100%	114 69.1%	1 0.6%	2 1.2%	1 0.6%	5 3.0%	1 0.6%	2 1.2%	1 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	16 9.7%	22 13.3%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表Ⅱ-2-6 所得階層とほっとできる場所のクロス

	合計	ほっとできる居場所												
		自分の家	同じ学校の友だちの家	同じ学校ではない友だちの家	塾や習い事	学校(部活など)	スポーツクラブの活動の場 (野球場、サッカー場など)	公園	図書館や公共の施設	ショッピングセンター	児童会館	ない	不明	
全体	4,972 100%	4,197 84.4%	64 1.3%	14 0.3%	23 0.5%	145 2.9%	26 0.5%	51 1.0%	33 0.7%	8 0.2%	12 0.2%	229 4.6%	170 3.4%	
所得階層	低所得層Ⅰ	790 100%	628 79.5%	13 1.6%	3 0.4%	2 0.3%	31 3.9%	6 0.8%	14 1.8%	8 1.0%	2 0.3%	5 0.6%	44 5.6%	34 4.3%
	低所得層Ⅱ	842 100%	730 86.7%	12 1.4%	2 0.2%	2 0.2%	27 3.2%	2 0.2%	8 1.0%	5 0.6%	2 0.2%	1 0.1%	30 3.6%	21 2.5%
	中間所得層Ⅰ	782 100.1%	680 87.0%	8 1.0%	1 0.1%	5 0.6%	20 2.6%	1 0.1%	9 1.2%	5 0.6%	2 0.3%	2 0.3%	35 4.5%	14 1.8%
	中間所得層Ⅱ	1,250 100%	1,061 84.9%	17 1.4%	3 0.2%	9 0.7%	29 2.3%	10 0.8%	10 0.8%	9 0.7%	2 0.2%	1 0.1%	59 4.7%	40 3.2%
	上位所得層	736 100%	632 85.9%	11 1.5%	2 0.3%	3 0.4%	22 3.0%	4 0.5%	8 1.1%	3 0.4%	0 0.0%	2 0.3%	30 4.1%	19 2.6%
	不明	572 100%	466 81.5%	3 0.5%	3 0.5%	2 0.3%	16 2.8%	3 0.5%	2 0.3%	3 0.5%	0 0.0%	1 0.2%	31 5.4%	42 7.3%

※小5、中2、高2の子どもが回答

悩みごとの相談相手については、いずれの学年においても、親と同じ学校の友だちと回答する者の割合が高い。親と学校の先生については、中学2年生以降、相談相手として選ぶ割合が低下する一方で、同じ学校の友だちは、学年による顕著な違いはみられなかった。また割合自体はそれほど大きくないが、中学生以降では、ネットで知り合った人の割合が増える傾向もみられる。(表Ⅱ-2-7)

世帯類型別に見ると、親、きょうだい、学校の先生において若干ではあるが、ひとり親世帯の子どもの方が、相談相手として選ぶ割合が低い。逆に、割合自体はそれほど高くないが、だれにも相談できない、だれにも相談したくないについては、ひとり親世帯の子どもの方が該当する者の割合が高い。(表Ⅱ-2-8)

所得階層別に見ると、親を相談相手とする者の割合が、他の階層がすべて7割を超えている中で、低所得層Ⅰのみが68.7%とやや低い値を示している。その一方で、だれにも相談できない、だれにも相談したくない者の割合については顕著な差はみられない。(表Ⅱ-2-9)

表Ⅱ-2-7 学年と悩みごとの相談相手のクロス

	合計	悩みごとの相談相手（※複数回答）														
		親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	同じ学校の友だち	同じ学校ではない友だち	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど	塾・習い事の先生、地域の人など	その他の大人(学童保育所の人、バイト先の人)	ネットでも知り合った人	その他(左記以外の人)	だれにも相談できない	だれにも相談したくない	不明	
全体	4,972 -	3,543 71.3%	1,346 27.1%	903 18.2%	2,046 41.2%	3,187 64.1%	704 14.2%	258 5.2%	187 3.8%	22 0.4%	200 4.0%	76 1.5%	99 2.0%	287 5.8%	241 4.8%	
学年	小学生 5年生	1,970 -	1,568 79.6%	618 31.4%	523 26.5%	986 50.1%	1,242 63.0%	187 9.5%	116 5.9%	88 4.5%	0 0.0%	32 1.6%	26 1.3%	36 1.8%	83 4.2%	84 4.3%
	中学生 2年生	1,726 -	1,139 66.0%	435 25.2%	262 15.2%	655 37.9%	1,109 64.3%	187 10.8%	91 5.3%	75 4.3%	0 0.0%	88 5.1%	25 1.4%	39 2.3%	137 7.9%	93 5.4%
	高校 2年生	1,276 -	836 65.5%	293 23.0%	118 9.2%	405 31.7%	836 65.5%	330 25.9%	51 4.0%	24 1.9%	22 1.7%	80 6.3%	25 2.0%	24 1.9%	67 5.3%	64 5.0%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表Ⅱ-2-8 世帯類型と悩みごとの相談相手のクロス

	合計	悩みごとの相談相手（※複数回答）														
		親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	同じ学校の友だち	同じ学校ではない友だち	ルソーシヤルワーカーなど	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど	塾・習い事の先生、地域の人など	その他の大人(学童保育所の人、バイト先の人)	ネットで知り合った人	その他(左記以外の人)	だれにも相談できない	だれにも相談したくない	不明
全体	4,972 -	3,543 71.3%	1,346 27.1%	903 18.2%	2,046 41.2%	3,187 64.1%	704 14.2%	258 5.2%	187 3.8%	22 0.4%	200 4.0%	76 1.5%	99 2.0%	287 5.8%	241 4.8%	
世帯類型	ひとり親世帯	819 -	554 67.6%	177 21.6%	165 20.1%	296 36.1%	511 62.4%	130 15.9%	47 5.7%	35 4.3%	11 1.3%	38 4.6%	11 1.3%	26 3.2%	59 7.2%	38 4.6%
	ふたり親世帯	3,934 -	2,864 72.8%	1,119 28.4%	705 17.9%	1,671 42.5%	2,564 65.2%	544 13.8%	204 5.2%	141 3.6%	11 0.3%	145 3.7%	59 1.5%	66 1.7%	213 5.4%	182 4.6%
	その他世帯	54 -	36 66.7%	14 25.9%	16 29.6%	21 38.9%	35 64.8%	4 7.4%	1 1.9%	3 5.6%	0 0.0%	5 9.3%	3 5.6%	1 1.9%	2 3.7%	1 1.9%
	不明	165 -	89 53.9%	36 21.8%	17 10.3%	58 35.2%	77 46.7%	26 15.8%	6 3.6%	8 4.8%	0 0.0%	12 7.3%	3 1.8%	6 3.6%	13 7.9%	20 12.1%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表Ⅱ-2-9 所得階層と悩みごとの相談相手のクロス

	合計	悩みごとの相談相手（※複数回答）														
		親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	同じ学校の友だち	同じ学校ではない友だち	ルソーシヤルワーカーなど	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど	塾・習い事の先生、地域の人など	その他の大人(学童保育所の人、バイト先の人)	ネットで知り合った人	その他(左記以外の人)	だれにも相談できない	だれにも相談したくない	不明
全体	4,972 -	3,543 71.3%	1,776 35.7%	903 18.2%	2,046 41.2%	3,187 64.1%	704 14.2%	258 5.2%	187 3.8%	22 0.4%	200 4.0%	76 1.5%	99 2.0%	287 5.8%	241 4.8%	
所得階層	低所得層Ⅰ	790 -	543 68.7%	208 26.3%	166 21.0%	310 39.2%	495 62.7%	115 14.6%	50 6.3%	35 4.4%	9 1.1%	41 5.2%	11 1.4%	19 2.4%	54 6.8%	41 5.2%
	低所得層Ⅱ	842 -	612 72.7%	244 29.0%	157 18.6%	352 41.8%	559 66.4%	98 11.6%	47 5.6%	25 3.0%	2 0.2%	26 3.1%	15 1.8%	13 1.5%	37 4.4%	41 4.9%
	中間所得層Ⅰ	782 -	580 74.2%	207 26.5%	135 17.3%	337 43.1%	504 64.5%	105 13.4%	39 5.0%	26 3.3%	2 0.3%	23 2.9%	10 1.3%	16 2.0%	33 4.2%	35 4.5%
	中間所得層Ⅱ	1,250 -	905 72.4%	341 27.3%	228 18.2%	540 43.2%	824 65.9%	196 15.7%	62 5.0%	47 3.8%	5 2.0%	50 4.0%	18 1.4%	29 2.3%	70 5.6%	51 4.1%
	上位所得層	736 -	523 71.1%	204 27.7%	133 18.1%	291 39.5%	483 65.6%	117 15.9%	38 5.2%	36 4.9%	2 0.3%	31 4.2%	10 1.4%	8 1.1%	50 6.8%	33 4.5%
	不明	572 -	380 66.4%	572 100.0%	84 14.7%	216 37.8%	322 56.3%	73 12.8%	22 3.8%	18 3.1%	2 0.3%	29 5.1%	12 2.1%	14 2.4%	43 7.5%	40 7.0%

※小5、中2、高2の子どもが回答

夕食を誰と食べるかについては、中学生以降、家族と回答する者の割合が減り、一人で食べると回答する者の割合が増え、特に高校生で顕著である。(表Ⅱ-2-10)

世帯類型別に見ると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯の子どものほうが、家族と食べると回答する者の割合が若干ではあるが、低く、一人で食べると回答する者の割合が多い。(表Ⅱ-2-11)

所得階層別に見ると、低所得層Ⅰにおいて、わずかではあるが、家族と回答する者の割合が低く、一人で食べると回答する者の割合が高い。(表Ⅱ-2-12)

表Ⅱ-2-10 学年と平日に夕食をだれと食べるかのクロス

		合 計	平日に夕食をだれと食べるか				
			家 族	家族以外の人	きょうだいで食べる	一人で食べる	不 明
全 体		6,859 100.0%	6,125 89.3%	88 1.3%	210 3.1%	318 4.6%	118 1.7%
学 年	小学 2 年生	1,887 100.0%	1,758 93.2%	18 1.0%	77 4.1%	9 0.5%	25 1.3%
	小学 5 年生	1,970 100.0%	1,828 92.8%	16 0.8%	47 2.4%	41 2.1%	38 1.9%
	中学 2 年生	1,726 100.0%	1,532 88.8%	10 0.6%	55 3.2%	106 6.1%	23 1.3%
	高校 2 年生	1,276 100.0%	1,007 78.9%	44 3.4%	31 2.4%	162 12.7%	32 2.5%

※小2の保護者と小5、中2、高2の子どもが回答

表Ⅱ-2-11 世帯類型と平日に夕食をだれと食べるかのクロス

		合 計	平日に夕食をだれと食べるか				
			家 族	家族以外の人	きょうだいで食べる	一人で食べる	不 明
全 体		4,972 100.0%	4,367 87.8%	70 1.4%	133 2.7%	309 6.2%	93 1.9%
世 帯 類 型	ひとり親世帯	819 100.0%	695 84.9%	2 0.2%	17 2.1%	90 11.0%	15 1.8%
	ふたり親世帯	3,934 99.9%	3,529 89.7%	45 1.1%	111 2.8%	192 4.9%	57 1.4%
	その他世帯	54 100.0%	45 83.3%	3 5.6%	0 0.0%	4 7.4%	2 3.7%
	不 明	165 99.9%	98 59.4%	20 12.1%	5 3.0%	23 13.9%	19 11.5%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表Ⅱ－２－１２ 所得階層と平日に夕食をだれと食べるかのクロス

		合 計	平日に夕食をだれと食べるか				
			家 族	家族以外の人	きょうだいで食べる	一人で食べる	不 明
全 体		4,972 100.0%	4,367 87.8%	70 1.4%	133 2.7%	309 6.2%	93 1.9%
所得階層	低所得層Ⅰ	790 100.0%	675 85.4%	8 1.0%	25 3.2%	68 8.6%	14 1.8%
	低所得層Ⅱ	842 100.0%	754 89.5%	9 1.1%	26 3.1%	44 5.2%	9 1.1%
	中間所得層Ⅰ	782 100.1%	713 91.2%	6 0.8%	21 2.7%	33 4.2%	9 1.2%
	中間所得層Ⅱ	1,250 100.0%	1,111 88.9%	9 0.7%	31 2.5%	74 5.9%	25 2.0%
	上位所得層	736 100.0%	659 89.5%	13 1.8%	15 2.0%	42 5.7%	7 1.0%
	不 明	572 100.0%	455 79.5%	25 4.4%	15 2.6%	48 8.4%	29 5.1%

※小5、中2、高2の子どもが回答

3 進学・勉強時間・成績について

【学年別の進路希望】

どの学年も「まだわからない」を除くと、「大学またはそれ以上」の選択が最も多い。高校までの割合は2割ほどで学年差はほぼ無い。「まだ分からない」と答える割合は学校段階が上がるにつれて減少している。(表Ⅱ-3-1)

表Ⅱ-3-1 学年別の進路希望

	合計	中学まで	高校まで	短大	高等専門学校	専門学校	大学またはそれ以上	まだわからない	無回答
小5	1,970 100%	23 1.2%	376 19.1%	46 2.3%	36 1.8%	219 11.1%	467 23.7%	773 39.2%	30 1.5%
中2	1,726 100%	6 0.3%	329 19.1%	46 2.7%	33 1.9%	257 14.9%	532 30.8%	507 29.4%	16 0.9%
高2	1,276 100%	— —	242 19.0%	54 4.2%	23 1.8%	286 22.4%	491 38.5%	170 13.3%	10 0.8%

【進路選択について「高校まで」と答えた理由】

高校までを選択した理由として、最も選択理由として挙げられたものは、「希望する学校や職業があるから」であり、小5で2割、中2で3割、高2で4割であった。家にお金がないと思うという理由も高校生で16.5%であった。(表Ⅱ-3-2)

どの学年も所得の低い階層ほど高校までを選択している。一方、低所得階層でも一定数は大学を希望している(おおよそ17%~25%程度)。なお、上位所得層は小学校段階でも4割ほどが大学以上を希望しており、進学意識の階層差が小学校段階においてもある程度明確になっていることがうかがえる。(表Ⅱ-3-3~表Ⅱ-3-5)

表Ⅱ-3-2 進路選択について「高校まで」を選んだ理由

	合計	から 希望する学校や職業がある	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	家にお金がないと思うから	早く働く必要があると思うから	よい仕事につけないから	親もその進路を選択しているから	勉強する意味が分からないから	学びたいことがあるから	その他	とくに理由はない
小5	376	87 23.14%	75 19.95%	44 11.70%	17 4.52%	14 3.72%	22 5.85%	36 9.57%	21 5.59%	20 5.32%	14 3.72%	38 10.11%	23 6.12%	100 26.60%
中2	329	111 33.74%	105 31.91%	52 15.81%	29 8.81%	21 6.38%	27 8.21%	35 10.64%	35 10.64%	29 8.81%	18 5.47%	26 7.90%	11 3.34%	66 20.06%
高2	242	102 42.15%	49 20.25%	27 11.16%	13 5.37%	8 3.31%	40 16.53%	22 9.09%	2 0.83%	16 6.61%	18 7.44%	10 4.13%	9 3.72%	47 19.42%
全体	947	300 31.68%	229 24.18%	123 12.99%	59 6.23%	43 4.54%	89 9.40%	93 9.82%	58 6.12%	65 6.86%	50 5.28%	74 7.81%	43 4.54%	213 22.49%

表Ⅱ-3-3 所得階層と進路希望のクロス集計（小学5年生）

	1 中学まで	2 高校まで	3 短大	4 高等専門学校	5 専門学校	6 以上 大学またはそれ	7 まだわからない	99 無回答	合計
低所得層Ⅰ	5 1.6%	67 21.9%	9 2.9%	6 2.0%	36 11.8%	56 18.3%	124 40.5%	3 1.0%	306 100.0%
低所得層Ⅱ	4 1.1%	99 28.4%	4 1.1%	8 2.3%	34 9.8%	60 17.2%	134 38.5%	5 1.4%	348 100.0%
中間所得層Ⅰ	2 0.6%	65 19.5%	10 3.0%	9 2.7%	29 8.7%	73 21.9%	142 42.5%	4 1.2%	334 100.0%
中間所得層Ⅱ	3 0.6%	71 14.4%	11 2.2%	6 1.2%	65 13.2%	135 27.4%	196 39.8%	6 1.2%	493 100.0%
上位所得層	0 0.0%	34 12.4%	8 2.9%	4 1.5%	29 10.6%	108 39.4%	87 31.8%	4 1.5%	274 100.0%
無回答	6 3.4%	28 16.0%	4 2.3%	3 1.7%	22 12.6%	27 15.4%	78 44.6%	7 4.0%	175 100.0%
マッチング無	3 7.5%	12 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 10.0%	8 20.0%	12 30.0%	1 2.5%	40 100.0%
合計	23 1.2%	376 19.1%	46 2.3%	36 1.8%	219 11.1%	467 23.7%	773 39.2%	30 1.5%	1,970 100.0%

表Ⅱ－３－４ 所得階層と進路希望のクロス集計（中学２年生）

	1 中学まで	2 高校まで	3 短大	4 高等専門学校	5 専門学校	6 以上 大学またはそれ	7 まだわからない	99 無回答	合計
低所得層Ⅰ	4 1.5%	78 29.8%	4 1.5%	1 0.4%	49 18.7%	46 17.6%	78 29.8%	2 0.8%	262 100.0%
低所得層Ⅱ	0 0.0%	74 25.7%	12 4.2%	8 2.8%	52 18.1%	60 20.8%	81 28.1%	1 0.3%	288 100.0%
中間所得層Ⅰ	0 0.0%	49 18.2%	8 3.0%	7 2.6%	40 14.9%	66 24.5%	97 36.1%	2 0.7%	269 100.0%
中間所得層Ⅱ	0 0.0%	68 14.4%	12 2.5%	9 1.9%	71 15.0%	176 37.2%	134 28.3%	3 0.6%	473 100.0%
上位所得層	1 0.4%	17 6.6%	8 3.1%	4 1.6%	26 10.1%	129 50.2%	71 27.6%	1 0.4%	257 100.0%
無回答	1 0.6%	38 23.8%	1 0.6%	3 1.9%	18 11.3%	48 30.0%	44 27.5%	7 4.4%	160 100.0%
マッチング無	0 0.0%	5 29.4%	1 5.9%	1 5.9%	1 5.9%	7 41.2%	2 11.8%	0 0.0%	17 100.0%
合計	6 0.3%	329 19.1%	46 2.7%	33 1.9%	257 14.9%	532 30.8%	507 29.4%	16 0.9%	1,726 100.0%

表Ⅱ－３－５ 所得階層と進路希望のクロス集計（高校２年生）

	1 中学まで	2 高校まで	3 短大	4 高等専門学校	5 専門学校	6 以上 大学またはそれ	7 まだわからない	99 無回答	合計
低所得層Ⅰ	-	63 28.4%	15 6.8%	6 2.7%	46 20.7%	56 25.2%	34 15.3%	2 0.9%	222 100.0%
低所得層Ⅱ	-	52 25.2%	13 6.3%	5 2.4%	59 28.6%	52 25.2%	23 11.2%	2 1.0%	206 100.0%
中間所得層Ⅰ	-	33 18.4%	6 3.4%	2 1.1%	48 26.8%	58 32.4%	29 16.2%	3 1.7%	179 100.0%
中間所得層Ⅱ	-	37 13.0%	8 2.8%	5 1.8%	61 21.5%	133 46.8%	40 14.1%	0 0.0%	284 100.0%
上位所得層	-	17 8.3%	4 2.0%	2 1.0%	36 17.6%	127 62.0%	19 9.3%	0 0.0%	205 100.0%
無回答	-	22 17.2%	7 5.5%	2 1.6%	26 20.3%	50 39.1%	18 14.1%	3 2.3%	128 100.0%
マッチング無	-	18 34.6%	1 1.9%	1 1.9%	10 19.2%	15 28.8%	7 13.5%	0 0.0%	52 100.0%
合計	-	242 19.0%	54 4.2%	23 1.8%	286 22.4%	491 38.5%	170 13.3%	10 0.8%	1,276 100.0%

【授業以外の日あたりの勉強時間（学校がある日）】

全体的に低所得者層ほど勉強時間が短く、上位所得者層ほど勉強時間が長い傾向にあるが、小学校段階での差はそれほど明確でない。中学校段階になるとやや顕著になりはじめ、高校生になると、例えば「全くしない」割合は低所得層Ⅰで27.5%、上位所得層で13.2%となり、10%程度の開きがある。（表Ⅱ－3－7）

表Ⅱ－3－6 平日の勉強時間の学年ごとの集計

		学校がある日（月～金曜日）の学校以外の勉強時間							合計
		1 まったくしない	2 30分より少ない	3 30分以上、 1時間より 少ない	4 1時間以上、 2時間 より少ない	5 2時間以上、 3時間 より少ない	6 3時間以上	99 無回答	
学 年	小学5年生	51 2.6%	375 19.0%	817 41.5%	526 26.7%	96 4.9%	57 2.9%	48 2.4%	1,970 100.0%
	中学2年生	186 10.8%	298 17.3%	405 23.5%	556 32.2%	204 11.8%	53 3.1%	24 1.4%	1,726 100.0%
	高校2年生	285 22.3%	267 20.9%	338 26.5%	256 20.1%	79 6.2%	23 1.8%	28 2.2%	1,276 100.0%
合計		522 10.5%	940 18.9%	1,560 31.4%	1,338 26.9%	379 7.6%	133 2.7%	100 2.0%	4,972 100.0%

表Ⅱ-3-7 所得階層と平日の勉強時間とのクロス集計

学 年		学校がある日（月～金曜日）の学校以外の勉強時間							合 計
		1 まったくしない	2 30分より少ない	3 30分以上、 1時間より 少ない	4 1時間以上、 2時間 より少ない	5 2時間以上、 3時間 より少ない	6 3時間以上	99 無回答	
小 学 5 年 生	低所得層Ⅰ	12 3.9%	73 23.9%	107 35.0%	76 24.8%	19 6.2%	10 3.3%	9 2.9%	306 100.0%
	低所得層Ⅱ	15 4.3%	76 21.8%	155 44.5%	76 21.8%	11 3.2%	10 2.9%	5 1.4%	348 100.0%
	中間所得層Ⅰ	7 2.1%	62 18.6%	148 44.3%	86 25.7%	14 4.2%	10 3.0%	7 2.1%	334 100.0%
	中間所得層Ⅱ	5 1.0%	78 15.8%	189 38.3%	166 33.7%	29 5.9%	12 2.4%	14 2.8%	493 100.0%
	上位所得層	2 0.7%	38 13.9%	119 43.4%	85 31.0%	18 6.6%	7 2.6%	5 1.8%	274 100.0%
	無回答	9 5.1%	36 20.6%	81 46.3%	33 18.9%	4 2.3%	6 3.4%	6 3.4%	175 100.0%
	マッチング無	1 2.5%	12 30.0%	18 45.0%	4 10.0%	1 2.5%	2 5.0%	2 5.0%	40 100.0%
	合計	51 2.6%	375 19.0%	817 41.5%	526 26.7%	96 4.9%	57 2.9%	48 2.4%	1,970 100.0%
中 学 2 年 生	低所得層Ⅰ	34 13.0%	62 23.7%	59 22.5%	70 26.7%	28 10.7%	4 1.5%	5 1.9%	262 100.0%
	低所得層Ⅱ	36 12.5%	48 16.7%	75 26.0%	95 33.0%	24 8.3%	10 3.5%	0 0.0%	288 100.0%
	中間所得層Ⅰ	34 12.6%	44 16.4%	70 26.0%	87 32.3%	24 8.9%	8 3.0%	2 0.7%	269 100.0%
	中間所得層Ⅱ	41 8.7%	85 18.0%	103 21.8%	158 33.4%	65 13.7%	19 4.0%	2 0.4%	473 100.0%
	上位所得層	23 8.9%	27 10.5%	62 24.1%	97 37.7%	38 14.8%	8 3.1%	2 0.8%	257 100.0%
	無回答	15 9.4%	28 17.5%	33 20.6%	45 28.1%	22 13.8%	4 2.5%	13 8.1%	160 100.0%
	マッチング無	3 17.6%	4 23.5%	3 17.6%	4 23.5%	3 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	17 100.0%
	合計	186 10.8%	298 17.3%	405 23.5%	556 32.2%	204 11.8%	53 3.1%	24 1.4%	1,726 100.0%

高 校 2 年 生	低所得層Ⅰ	61 27.5%	49 22.1%	54 24.3%	39 17.6%	9 4.1%	3 1.4%	7 3.2%	222 100.0%
	低所得層Ⅱ	58 28.2%	49 23.8%	47 22.8%	36 17.5%	7 3.4%	6 2.9%	3 1.5%	206 100.0%
	中間所得層Ⅰ	41 22.9%	36 20.1%	54 30.2%	29 16.2%	13 7.3%	5 2.8%	1 0.6%	179 100.0%
	中間所得層Ⅱ	53 18.7%	57 20.1%	80 28.2%	62 21.8%	22 7.7%	3 1.1%	7 2.5%	284 100.0%
	上位所得層	27 13.2%	31 15.1%	52 25.4%	69 33.7%	20 9.8%	4 2.0%	2 1.0%	205 100.0%
	無回答	28 21.9%	36 28.1%	33 25.8%	17 13.3%	6 4.7%	1 0.8%	7 5.5%	128 100.0%
	マッチング無	17 32.7%	9 17.3%	18 34.6%	4 7.7%	2 3.8%	1 1.9%	1 1.9%	52 100.0%
	合計	285 22.3%	267 20.9%	338 26.5%	256 20.1%	79 6.2%	23 1.8%	28 2.2%	1,276 100.0%
合 計	低所得層Ⅰ	107 13.5%	184 23.3%	220 27.8%	185 23.4%	56 7.1%	17 2.2%	21 2.7%	790 100.0%
	低所得層Ⅱ	109 12.9%	173 20.5%	277 32.9%	207 24.6%	42 5.0%	26 3.1%	8 1.0%	842 100.0%
	中間所得層Ⅰ	82 10.5%	142 18.2%	272 34.8%	202 25.8%	51 6.5%	23 2.9%	10 1.3%	782 100.0%
	中間所得層Ⅱ	99 7.9%	220 17.6%	372 29.8%	386 30.9%	116 9.3%	34 2.7%	23 1.8%	1,250 100.0%
	上位所得層	52 7.1%	96 13.0%	233 31.7%	251 34.1%	76 10.3%	19 2.6%	9 1.2%	736 100.0%
	無回答	52 11.2%	100 21.6%	147 31.7%	95 20.5%	32 6.9%	11 2.4%	26 5.6%	463 100.0%
	マッチング無	21 19.3%	25 22.9%	39 35.8%	12 11.0%	6 5.5%	3 2.8%	3 2.8%	109 100.0%
	合計	522 10.5%	940 18.9%	1,560 31.4%	1,338 26.9%	379 7.6%	133 2.7%	100 2.0%	4,972 100.0%

【成績がクラス、学年の中でどのくらいだと思うか】

所得階層が高いほど、成績の自己認知が高く、階層が低いほど自己認知は低い。小学校5年生でも比較的顕著であり、中学生ではその差が拡大する。例えば、5年生について、低所得層Ⅰではおよそ3割が「よいほう」「どちらかというといよいほう」に回答するのに対して、上位所得層ではおよそ5割がそう回答する。さらに、中学2年生では、約17%の低所得層Ⅰがそう回答するのに対して、上位所得層では約46%がこれらのカテゴリを選択した。高校では、こうした成績の自己認知における所得差は比較的落ち着くようにみえる。(表Ⅱ-3-9)

表Ⅱ-3-8 成績の自己認知 学年ごとの集計

		1 よいほう	2 よいほう どちらかというといよいほう	3 まんなかあたり	4 よくないほう どちらかというといよいほう	5 よくないほう	99 無回答	合計
学 年	小学5年生	331 16.8%	484 24.6%	763 38.7%	232 11.8%	131 6.6%	29 1.5%	1,970 100.0%
	中学2年生	220 12.7%	334 19.4%	524 30.4%	264 15.3%	356 20.6%	28 1.6%	1,726 100.0%
	高校2年生	174 13.6%	293 23.0%	380 29.8%	227 17.8%	180 14.1%	22 1.7%	1,276 100.0%

表Ⅱ-3-9 所得階層と成績の自己認知のクロス集計

		1 よいほう	2 どちらかという よいほう	3 まんなかあたり	4 どちらかという よくないほう	5 よくないほう	99 無回答	合 計
小学 5 年 生	低所得層Ⅰ	30 9.8%	61 19.9%	125 40.8%	51 16.7%	34 11.1%	5 1.6%	306 100.0%
	低所得層Ⅱ	55 15.8%	64 18.4%	148 42.5%	56 16.1%	22 6.3%	3 0.9%	348 100.0%
	中間所得層Ⅰ	58 17.4%	91 27.2%	133 39.8%	32 9.6%	16 4.8%	4 1.2%	334 100.0%
	中間所得層Ⅱ	103 20.9%	133 27.0%	173 35.1%	52 10.5%	24 4.9%	8 1.6%	493 100.0%
	上位所得層	51 18.6%	94 34.3%	96 35.0%	18 6.6%	12 4.4%	3 1.1%	274 100.0%
	無回答	30 17.1%	38 21.7%	67 38.3%	19 10.9%	15 8.6%	6 3.4%	175 100.0%
	マッチング無	4 10.0%	3 7.5%	21 52.5%	4 10.0%	8 20.0%	0 0.0%	40 100.0%
	合計	331 16.8%	484 24.6%	763 38.7%	232 11.8%	131 6.6%	29 1.5%	1,970 100.0%
中 学 2 年 生	低所得層Ⅰ	17 6.5%	28 10.7%	76 29.0%	54 20.6%	83 31.7%	4 1.5%	262 100.0%
	低所得層Ⅱ	27 9.4%	40 13.9%	84 29.2%	63 21.9%	72 25.0%	2 0.7%	288 100.0%
	中間所得層Ⅰ	33 12.3%	55 20.4%	82 30.5%	40 14.9%	55 20.4%	4 1.5%	269 100.0%
	中間所得層Ⅱ	75 15.9%	113 23.9%	151 31.9%	52 11.0%	77 16.3%	5 1.1%	473 100.0%
	上位所得層	50 19.5%	69 26.8%	80 31.1%	26 10.1%	30 11.7%	2 0.8%	257 100.0%
	無回答	17 10.6%	26 16.3%	46 28.8%	27 16.9%	33 20.6%	11 6.9%	160 100.0%
	マッチング無	1 5.9%	3 17.6%	5 29.4%	2 11.8%	6 35.3%	0 0.0%	17 100.0%
	合計	220 12.7%	334 19.4%	524 30.4%	264 15.3%	356 20.6%	28 1.6%	1,726 100.0%

高 校 2 年 生	低所得層Ⅰ	24 10.8%	50 22.5%	63 28.4%	48 21.6%	34 15.3%	3 1.4%	222 100.0%
	低所得層Ⅱ	30 14.6%	46 22.3%	61 29.6%	30 14.6%	36 17.5%	3 1.5%	206 100.0%
	中間所得層Ⅰ	24 13.4%	42 23.5%	52 29.1%	32 17.9%	26 14.5%	3 1.7%	179 100.0%
	中間所得層Ⅱ	43 15.1%	70 24.6%	82 28.9%	56 19.7%	32 11.3%	1 0.4%	284 100.0%
	上位所得層	30 14.6%	55 26.8%	59 28.8%	38 18.5%	21 10.2%	2 1.0%	205 100.0%
	無回答	16 12.5%	19 14.8%	50 39.1%	16 12.5%	18 14.1%	9 7.0%	128 100.0%
	マッチング無	7 13.5%	11 21.2%	13 25.0%	7 13.5%	13 25.0%	1 1.9%	52 100.0%
	合計	174 13.6%	293 23.0%	380 29.8%	227 17.8%	180 14.1%	22 1.7%	1,276 100.0%

4 健康（精神衛生）について

抑うつとは、気分がふさぎ込む憂うつな状態をあらわしており、今回、子どもを対象に使用した抑うつを測定する尺度は、7点にカットオフ値が設定されている。つまり、7点以上を取っていると、心理的な問題が生じる可能性が高くなることを意味している。今回の調査では、この尺度の得点が7点より低かった群を「一般群」、7点以上だった群を「抑うつ群」と定義した。

学年による違いについて見ると、学年が上がるにつれて、抑うつ群の割合が増え、一般群の割合が減っている。（表Ⅱ－4－1）

世帯類型別には、若干ではあるが、ひとり親世帯の子どものほうが、ふたり親世帯の子どもに比べ、抑うつ群に該当する者の割合が高い。（表Ⅱ－4－2）

所得階層では、わずかではあるが、低所得層Ⅰにおいて抑うつ群の割合が高くなり、一般群の割合が低くなる傾向がみられる。（表Ⅱ－4－3）

学年別の自分の家の暮らし向きの認知と抑うつとの関係については、自分の家の暮らし向きを苦しいと感じている者のほうが、抑うつ群に該当する者の割合が高くなる傾向が見られる。特に小学5年生でその傾向が顕著である。（表Ⅱ－4－4～表Ⅱ－4－6）

表Ⅱ－4－1 学年と抑うつ尺度のクロス

		合 計	抑うつ尺度		
			一般群	抑うつ群	不 明
全 体		4,972 100.0%	3,100 62.3%	1,664 33.5%	208 4.2%
学 年	小 学 5 年 生	1,970 100.0%	1,420 72.1%	450 22.8%	100 5.1%
	中 学 2 年 生	1,726 100.0%	1,014 58.7%	652 37.8%	60 3.5%
	高 校 2 年 生	1,276 100.0%	666 52.2%	562 44.0%	48 3.8%

※小5、中2、高2の子どもが回答した選択肢から分類

表Ⅱ－４－２ 世帯類型と抑うつ尺度のクロス

		合 計	抑うつ尺度		
			一般群	抑うつ群	不 明
全 体		4,972 100.0%	3,100 62.3%	1,664 33.5%	208 4.2%
世帯 類 型	ひとり親世帯	819 100.0%	469 57.3%	319 38.9%	31 3.8%
	ふたり親世帯	3,934 100.0%	2,514 63.9%	1,262 32.1%	158 4.0%
	その他世帯	54 100.0%	33 61.1%	20 37.0%	1 1.9%
	不 明	165 100.0%	84 50.9%	63 38.2%	18 10.9%

※小5、中2、高2の子どもが回答した選択肢から分類

表Ⅱ－４－３ 所得階層と抑うつ尺度のクロス

		合 計	抑うつ尺度		
			一般群	抑うつ群	不 明
全 体		4,972 100.0%	3,100 62.3%	1,664 33.5%	208 4.2%
所 得 階 層	低所得層Ⅰ	790 100.0%	463 58.6%	300 38.0%	27 3.4%
	低所得層Ⅱ	842 100.0%	546 64.8%	259 30.8%	37 4.4%
	中間所得層Ⅰ	782 100.0%	500 63.9%	258 33.0%	24 3.1%
	中間所得層Ⅱ	1,250 100.0%	790 63.2%	411 32.9%	49 3.9%
	上位所得層	736 100.0%	469 63.7%	236 32.1%	31 4.2%
	不 明	572 100.0%	332 58.0%	200 35.0%	40 7.0%

※小5、中2、高2の子どもが回答した選択肢から分類

表Ⅱ-4-4 自分の家の暮らし向きと抑うつ尺度のクロス (小学5年生)

		合 計	抑うつ尺度		
			一般群	抑うつ群	不 明
全 体		1,970 100.0%	1,420 72.1%	450 22.8%	100 5.1%
暮 ら し 向 き	大 変 苦 し い	38 100.0%	20 52.6%	18 47.4%	0 0.0%
	や や 苦 し い	101 100.0%	55 54.5%	44 43.6%	2 2.0%
	ふ つ う	953 100.0%	732 76.8%	180 18.9%	41 4.3%
	ややゆとりがある	265 100.0%	205 77.4%	54 20.4%	6 2.3%
	大変ゆとりがある	140 100.0%	114 81.4%	20 14.3%	6 4.3%
	わ か ら な い	436 100.0%	285 65.4%	129 29.6%	22 5.0%
	不 明	37 100.0%	9 24.3%	5 13.5%	23 62.2%

表Ⅱ-4-5 自分の家の暮らし向きと抑うつ尺度のクロス (中学2年生)

		合 計	抑うつ尺度		
			一般群	抑うつ群	不 明
全 体		1,726 100.0%	1,014 58.7%	652 37.8%	60 3.5%
暮 ら し 向 き	大 変 苦 し い	34 100.0%	17 50.0%	16 47.1%	1 2.9%
	や や 苦 し い	153 100.0%	76 49.7%	74 48.4%	3 2.0%
	ふ つ う	859 100.0%	535 62.3%	302 35.2%	22 2.6%
	ややゆとりがある	264 100.0%	149 56.4%	105 39.8%	10 3.8%
	大変ゆとりがある	97 100.0%	75 77.3%	21 21.6%	1 1.0%
	わ か ら な い	294 100.0%	156 53.1%	129 43.9%	9 3.1%
	不 明	25 100.0%	6 24.0%	5 20.0%	14 56.0%

表Ⅱ-4-6 自分の家の暮らし向きと抑うつ尺度のクロス（高校2年生）

		合 計	抑うつ尺度		
			一般群	抑うつ群	不 明
全 体		1,276 100.0%	666 52.2%	562 44.0%	48 3.8%
暮 ら し 向 き	大 変 苦 しい	44 100.0%	21 47.7%	23 52.3%	0 0.0%
	や や 苦 しい	216 100.0%	86 39.8%	125 57.9%	5 2.3%
	ふ つ う	635 100.0%	365 57.5%	261 41.1%	9 1.4%
	ややゆとりがある	193 100.0%	113 58.5%	77 39.9%	3 1.6%
	大変ゆとりがある	39 100.0%	21 53.8%	17 43.6%	1 2.6%
	わ か ら な い	121 100.0%	59 48.8%	59 48.8%	3 2.5%
	不 明	28 100.0%	1 3.6%	0 0.0%	27 96.4%